PIXELA CORPORATION

PRODIA

取扱説明書

PIX-YT010-P00

地上デジタルハイビジョン液晶テレビ

EPG（電子番組表）対応 | CATVパススルー対応 | 高精細液晶パネル搭載

HDMI HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

地デジ DIGITAL

205000030-1

この度は20V型地上デジタルハイビジョンテレビ「PIX-YT010-P00」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書（以下、本書）を良くお読みのうえ、正しくお使いください。

目次

はじめに

安全上の警告・注意

ご使用の前に、この「安全上の警告・注意」をよくお読みください。

警告表示について

本書では、安全にご使用いただくために次のような表示、記号で表しています。人や財産への危害、損害の発生を防ぐために表示の内容をよく理解し、本製品をお使いください。

表示	内容
警告	この表示は「火災や感電などにより、死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示は「感電やその他の事故により、けがや家財に損害を与える可能性が想定される」内容です。

記号	内容
⦸	行為を禁止する記号
❗	行為を指示する記号

警告　警告（全般）

記号	内容
❗	**以下の場合は、すぐに電源を切って、本製品の使用を中止してください。** 破損して内部がむき出しになっている状態でそのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。修理は弊社までご相談ください。 • 故障している • 異音、異臭、煙が出ている • 内部に水や異物が入った
⦸	**本製品の分解や改造、修理などは絶対にしないでください。** 火災や感電、故障の原因になります。修理は弊社までご相談ください。
⦸	**本製品の破損原因となる、下記の行為はしないでください。** 傷んだまま使用すると、感電･火災の原因になります。修理はお買い上げいただいた販売店様または、弊社ユーザーサポートセンターまでご相談ください。 • 本製品を傷つける、落とす、強い衝撃を与える、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、束ねるなど。
⦸	**本製品の上面や近くに重いもの、液体容器、金属類を置かないでください。** 火災、感電、故障の原因になります。
⦸	**本製品を水につけたり、濡れた手で本製品に触れないでください。** 感電や故障の原因になります。

⃠	本製品の内部に金属類や燃えやすいものを入れないでください。 火災や感電、故障の原因になります。
⃠	本製品の内部に指を入れないでください。 けがや感電、故障の原因になります。
⃠	振動や衝撃のある場所、傾斜しているなど、不安定な場所に本製品を置かないでください。また、そのような場所で本製品を使用しないでください。 倒れたり、落ちたりして、けがや破損の原因になります。
⃠	雷鳴が聞こえたときは、本製品に触れたり使用しないでください。 感電の原因になります。
⃠	プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所、および引火、爆発の恐れのある場所では使用しないでください。 爆発や火災の原因になります。
⃠	コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100V 以外での使用はしないでください。 たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。
⃠	本製品にぶらさがらないでください。 本製品が倒れたりして、本製品の下敷きになり、大けがの原因となることがあります。
⃠	液晶パネル部分はガラスでできていますので、強い衝撃や力を加えないでください。また、手で持ったり、たたいたりしないでください。 ガラスが壊れて、けがの原因となることがあります。
⃠	本製品の上に物をのせたり、布類で覆う、包む、通風孔をふさぐなど、風通しの悪い状態で使用しないでください。 内部温度が上昇し、火災や故障の原因になります。

警告　警告（移動、設置時）

!	開梱や持ち運びは必ず 2 人以上で行ってください。 誤った方法で運搬したり移動したりすると、本製品の落下や破損などにより、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。
!	運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。 誤った方法で運搬したり移動したりすると、本製品の落下や破損などにより、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。
!	本体を持つときは、しっかりと持ってください。 誤った方法で運搬したり移動したりすると、本製品の落下や破損などにより、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。
!	修理や引っ越しなどで本製品を運ぶ場合は、お買い上げ時に本製品が入っていた箱と、クッション材を使ってください。 誤った方法で運搬したり移動したりすると、本製品の落下や破損などにより、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。

❗	**運搬 / 移動するときは接続されているケーブルなどをすべてはずしてください。** 本製品を運ぶときは、本製品に接続されている電源プラグやケーブル等をすべてはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
❗	**使用・設置場所について** • 本製品は、何か異常が起こったときにすぐに電源プラグを抜けるよう、壁のコンセントに容易に手が届く場所に置いてください。 • 暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度な明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせ、視力に悪い影響を与えます。
🚫	**通風孔をふさがないでください。** 下記のような行為をして、通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。 • あお向けや横倒し、逆さまにする。 • 棚や押入の中に置く。 • ホットカーペットの上に置く。 • 布をかける。
❗	**周囲に間隔を空けてください。** 周囲に間隔を空けないで設置すると、通気孔がふさがって内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。下記の間隔を空けて、熱がこもらないように設置してください。 • 上部：30 cm 以上 • 左右側面：10 cm 以上 • 背面：10 cm 以上
❗	**次のことを守って、スタンドに本製品を設置してください。** 誤った方法で設置すると、本製品が転倒または落下し、大けがをすることがあります。 • 転倒防止の処置を必ず行う。 転倒防止の処置をしないと、本製品が倒れてけがの原因となることがあります。スタンドや床、壁などの間に、適切な転倒防止の処置を行ってください。
🚫	**不安定な場所に置かないでください。** ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、本製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。平らで充分に強度があり、落下しない所に置いてください。
🚫	**乗り物の中や船舶の中などで使用しないでください。** 移動中の振動により、本製品が転倒したりして、けがの原因となることがあります。塩水をかぶると、発火や故障の原因となることがあります。
🚫	**湿気やほこり、油煙、湿気の多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かないでください。** 火災や感電の原因となることがあります。銭湯や温泉の脱衣場などに設置すると、温泉に含まれる硫黄などにより、硫化したり、高い湿度で本製品が故障したりすることがあります。
🚫	**本製品を医療機器のそばに設置しないでください。** 医療機器の誤動作の原因となることがあります。
🚫	**屋外や窓際で使用しないでください。** 雨水などにさらされ、火災や感電の原因となることがあります。また、直射日光を受けると、本製品が熱を持ち、故障することがあります。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。

⊘	水のある場所に置かないでください。 水が入ったり、ぬれたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用は特にご注意ください。
⊘	本製品の表面が割れたときは、電源プラグをコンセントから抜くまで本製品に触れないでください。 電源プラグをコンセントから抜かずに本製品に触れると、感電の原因になることがあります。
⊘	目や口に液晶を入れたり、ガラスの破片に触れないでください。 液晶パネルが破損すると、破損した部分から液晶 (液状) が漏れたり、ガラスの破片が飛び散ることがあります。この液晶やガラスの破片に素手で触れたり、口に入れたりしないでください。ガラスの破片に触れると、けがをするおそれがあります。また、漏れた液晶に素手で触れると中毒やかぶれの原因となります。臭いをかぐこともやめてください。誤って目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

警告　警告 (電源ケーブル・プラグ)

❗	お手入れの際、電源プラグを抜いてください。 電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因となることがあります。
⊘	ぬれた手で電源プラグにさわらないでください。 ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因になることがあります。
⊘	電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、無理に曲げたり、加熱したりしないでください。 電源ケーブルが傷んだら (芯線の露出、断線) 交換をご依頼ください。そのまま使用すると、コードが破損して、火災・感電の原因となります。
⊘	電源ケーブルに重いものを載せたり、本製品の下敷きにしたりしないでください。 火災・感電の原因となります。
⊘	電源プラグをつなぐのは、他機器との接続が終わってからつないでください。 コンセントに差したまま他機器と接続したりすると、感電の原因になることがあります。他機器との接続が終わった後に、電源ケーブルを本製品につないでから電源プラグを壁のコンセントに差してください。
❗	電源ケーブルを抜くときはまず壁のコンセントから抜いてください。 壁のコンセントから抜かないと感電することがあります。抜くときは必ずプラグをもって抜いてください。
⊘	電源ケーブルを傷つけないでください。 電源ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。万一、電源ケーブルが傷んだ場合は、お買い上げ店に交換をご依頼ください。
⊘	電源ケーブルを引っ張らないでください。 電源プラグを抜くときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
❗	電源プラグの埃などは、定期的に掃除してください。 埃が付着したまま使用すると、火災の原因になります。電源プラグはコンセントから抜いて、乾いた布でふいてください。

❗	電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。 差し込みが不完全なまま使用すると、火災や感電の原因になります。
❗	本製品に付属の電源ケーブルを使用してください。 専用の電源ケーブル以外を使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
⃠	アース線の金具部分をコンセントに差し込まないでください。 火災や感電の原因になる場合があります。
⃠	電源ケーブルを熱器具に近づけないでください。 電源ケーブルの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。

警告　警告（乾電池）

⃠	電池を火の中に入れたり、ショートさせたり、分解、加熱、充電しないでください。 電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
❗	電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出してください。 電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
⃠	電池が液漏れしているときは、素手で触らないでください。また、電池から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。 皮膚の炎症や失明の原因になる恐れがあります。
❗	電池は小さなお子様の手が届かない場所に置いてください。 飲み込むと窒息などの原因となる恐れがあります。飲み込んだ恐れがあるときにはただちに医師と相談してください。

注意　注意（全般）

⃠	直射日光の当たる場所や極端に温度が高くなる場所、または極端に温度の低い場所では使用しないでください。 火災や故障の原因になります。
⃠	湿気、油気、埃の多い場所や加湿器のある場所では使用しないでください。 火災や感電、故障の原因になります。
❗	輸送、開梱、廃棄時には、パッケージの取り扱いに気をつけてください。 パッケージの端で手などを切り、けがの原因になります。
❗	本製品は小さなお子様の手が届かない場所に設置してください。 けがの原因になります。
❗	本製品を移動するときは、接続しているケーブル類をはずしてください。 ケーブル類が傷つくなど、火災、感電、故障の原因になります。

❗	長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。 電源プラグに埃がたまり、火災や感電の原因になります。
⃠	指定以外の電池を使ったり、新しい電池と古い電池を併用しないでください。 破裂したり、液が漏れたりして、火災、けが、汚損の原因になります。
❗	電池の＋と－の向きに注意してください。 向きが正しくない場合、破裂したり、液が漏れたりして、火災、けが、汚損の原因になります。
⃠	人が通行するような場所に置かないでください。 電源ケーブルや信号ケーブルが、足に引っかかるなどして、製品の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。
❗	ケーブル類は正しく配置してください。 電源ケーブルや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするような恐れのある場所を避け、充分注意して接続・配置してください。
⃠	風通しの悪いところに入れない・密閉した箱に入れない・じゅうたんや布団の上に置かない・布などをかけないでください。 ファンの通気孔や通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
⃠	たこ足配線をしないでください。 火災・感電の原因となることがあります。
⃠	重いものを置いたり、上に乗ったりしないでください。 倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。 特にお子様やペットにはご注意ください。
⃠	液晶画面に物をぶつけないでください。 ガラスが割れ、飛び散ったガラスにより、けがの原因となります。
❗	内部の掃除はお買い上げ店に依頼してください。 内部にほこりがたまると火災・故障の原因となることがあります。3 年に 1 度は内部の掃除をお買い上げ店にご依頼ください。
❗	アンテナの工事は電気店に依頼してください。 アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、必ず電気店にご依頼ください。
❗	音量について 周囲の人の迷惑とならないよう適度な音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を充分にし、生活環境を守りましょう。 ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時等に避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。

使用上のご注意

- 本製品とコンセントとの接続には、付属の電源ケーブル以外使用しないでください。
- 本体の通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所に設置しないでください。
- 長時間使用すると、放熱のため本体が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 本製品は、社団法人電波産業会（ARIB）が定める規格に準拠した仕様になっています。将来、規格の変更があった場合は、予告なしに仕様を変更する場合があります。
- デジタル放送の受信には B-CAS カードが必要です。視聴するときは、本体に付属の B-CAS カードが挿入されていることを確認してください。また、B-CAS カードを紛失、破損などされた場合は、B-CAS カスタマーセンターにお問い合わせください。
- 視聴中および待機中は B-CAS カードの抜き差しをしないでください。B-CAS カードを抜き差しするときは、電源プラグをコンセントからはずしてから行ってください。
- 本製品または、本製品のパッケージ、緩衝材などを廃棄する場合は、お住まいの地方自治体の条例または規則に従ってください。
- 輝点・滅点について
  画面上に赤や青､緑の点（輝点）が消えなかったり､黒い点（滅点）がある場合がありますが､故障ではありません。液晶パネルは非常に精密な技術で作られており、ごくわずかの画素がけや常時点灯する画素がある場合がありますが、ご了承ください。
- 画面の焼き付き（残像）について
  一定時間同じ画面を表示し続けると、部分的に消えない焼き付き（残像）が発生します。この焼き付き（残像）を避けるために、一定時間同じ画面を表示することは極力行わないでください。４：３の画像を長時間表示するとフルスクリーンの画像を表示したときに両側に輝度が異なる部分ができることがあります。できるだけフルスクリーンでお使いください。

本書について

- 本書の内容の一部、およびすべてを無断で転載することは禁じられています。
- 本書で使用している画像の一部は、はめ込み合成です。
- 本書で使用している画像は実際とは異なる場合があります。
- 本書で使用しているマークは以下の通りです。

（電球マーク）	このマークは、参考にしていただきたい内容について記述しています。
（！マーク）	このマークは、特に気を付けていただきたい内容について記述しています。

本製品について

本製品でできること

このたびは20V型地上デジタルハイビジョンテレビ　PIX-YT010-P00（以下本製品）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品はデジタル放送を見ることができる地上デジタルハイビジョンチューナー内蔵のアナログ・デジタル放送対応テレビです。

デジタル放送について

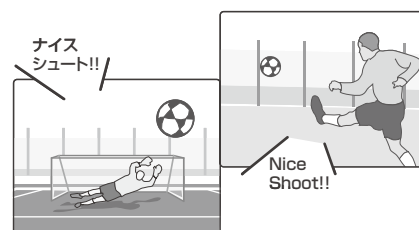
デジタル放送とは、デジタルハイビジョンの高画質・高音質でテレビ番組を見たり、データ放送や字幕表示など、さまざまなサービスを受けることができるテレビ放送です。本製品では、デジタル放送の以下の機能が利用できます。

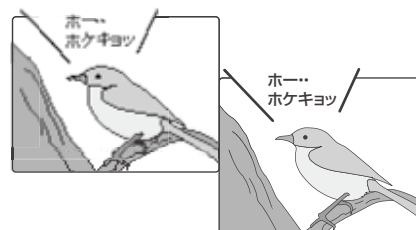
※ デジタル放送は2003年から放送が開始され、2006年12月には全国すべての県庁所在地で放送が開始されています。今後も放送エリアを拡大し、2011年7月までに現在のアナログ放送は、デジタル放送に移行されることが決定しています。

◆ 字幕放送

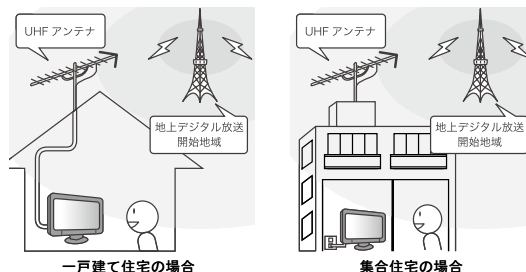
字幕表示に対応した番組の場合、画面に字幕を表示することができます。また、番組が複数の言語に対応している場合、表示する言語も選べます。

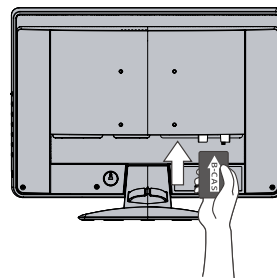
◆ マルチ映像・音声

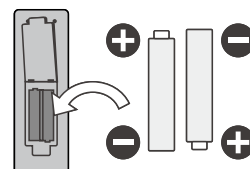
番組に複数の映像や音声が用意されている場合、映像や音声を切り換えることができます。たとえば、映像のアングルを切り換えたり、音声を日本語と英語で切り換えたりすることができます。

◆ 高画質・高音質

デジタル放送では、デジタルハイビジョンで番組が放送されるため、従来のアナログテレビに比べ、高画質・高音質を楽しめます。

テレビを見るまでの流れ

1. アンテナを設置する

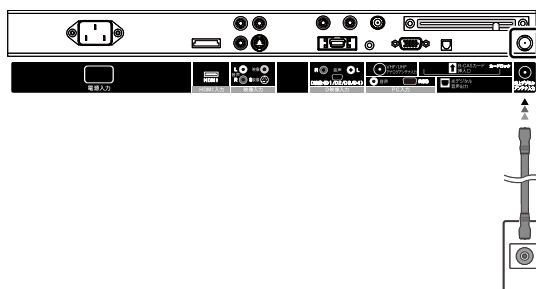
☞ 「デジタル放送が受信できるか確認する」P.13

2. B-CAS カードを挿入する

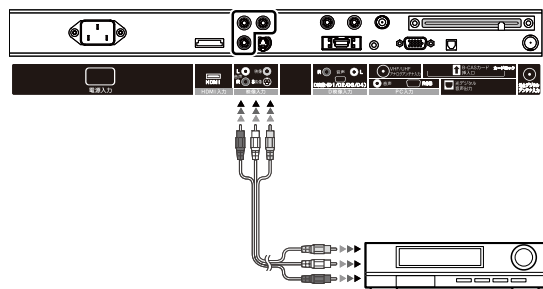
☞ 「B-CAS カードを挿入する」P.14

3. リモコンを準備する

☞ 「リモコンを準備する」P.15

4. アンテナを接続する

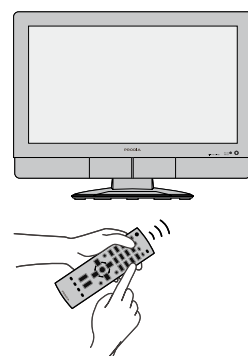
☞ 「デジタルテレビを見る」P.27

☞ 「アナログテレビを見る」 P.28

☞ 「デジタルテレビ＋アナログテレビを見る」P. 29

5. 各機器を接続する

「その他機器を接続する」P.31 ～

6. テレビの電源を入れる

「電源を接続する」P.35

「基本的な操作」P.36

7. チャンネルを設定する

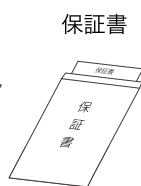
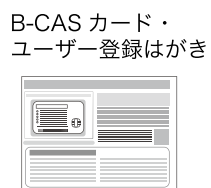
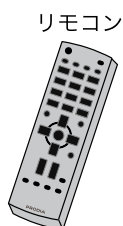
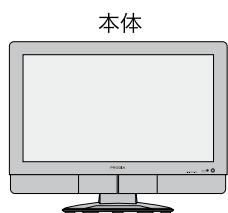
「デジタル放送を見る」P.40

「アナログ放送を見る」P.45

8. テレビを見る！

確認する

本製品に付属する内容品を確認する

- 本体
- リモコン
- 乾電池（単４ × ２本）※動作確認用
- B-CAS カード · ユーザー登録はがき
- 電源ケーブル
- アンテナケーブル (RF ケーブル)
- AV ケーブル
- ユーザー登録カード
- 保証書（箱に貼り付けられています）
- スタートアップガイド
- 取扱説明書 (本書)

デジタル放送について

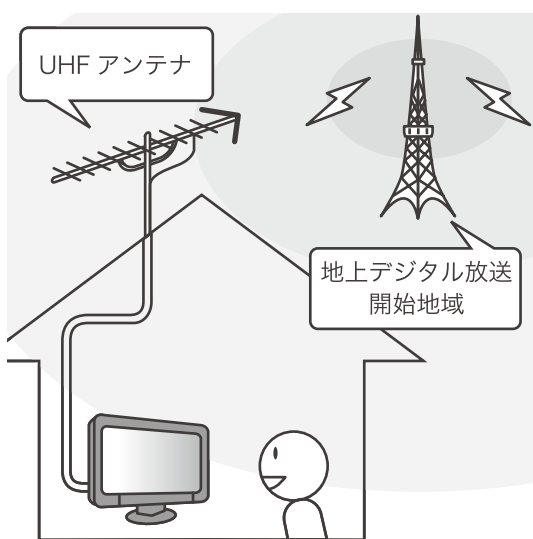
◆ デジタル放送が受信できるか確認する

デジタル放送を見るためには、次の 2 つの条件が必要です。

- お住まいの地域でデジタル放送が開始されていること

  受信できる地域は社団法人デジタル放送推進協会のホームページで確認できます。
  社団法人デジタル放送推進協会
  URL: http://www.dpa.or.jp/

- UHF 対応のアンテナを使用していること

  目安として、お使いのテレビで 13ch ～ 62ch までのチャンネルで番組が受信できていれば UHF 放送に対応しています。UHF に対応しているか不明な場合など、詳しくは本製品のお買い上げ店または電器店などにご相談ください。

集合住宅の場合

ケーブルテレビの使用について

ケーブルテレビをご利用の場合は、ケーブルテレビ会社からの配信方式がパススルー方式であれば、本製品を使用できます。配信方式についてはご契約のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

デジタル放送用のアンテナが必要なの？

デジタル放送は、これまで使用していた UHF アンテナで受信できます。ただし、デジタル放送とアナログ放送とでアンテナの受信方向が異なる場合、アンテナの角度調節が必要になったり、増幅器またはデジタル放送用に別のアンテナが必要になることがあります。
集合住宅の場合、設置方向の変更や改修工事については、お住まいの建物の管理会社または管理組合にご相談ください。

B-CAS カードを挿入する

B-CAS カードを本体に挿入します

1. B-CAS カード・ユーザー登録はがきの内容を確認して、B-CAS カードをはがします。

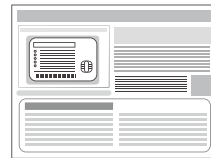
B-CAS ユーザー登録について

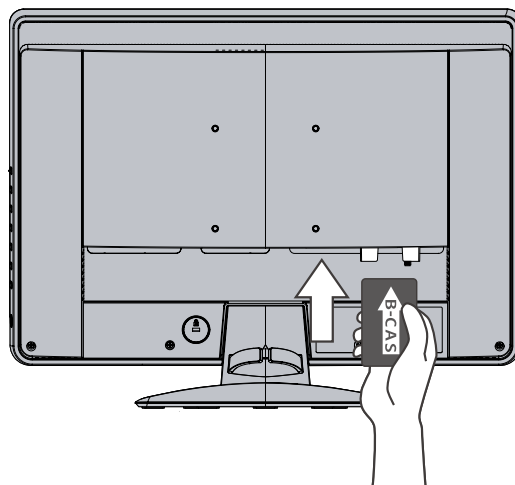
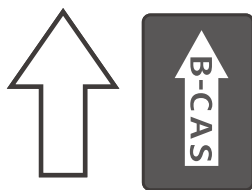
ユーザー登録はがきまたは株式会社ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズのホームページからユーザー登録をします。

株式会社ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ

URL:http://www.b-cas.co.jp/index.html
使用許諾契約約款をよくお読みください。

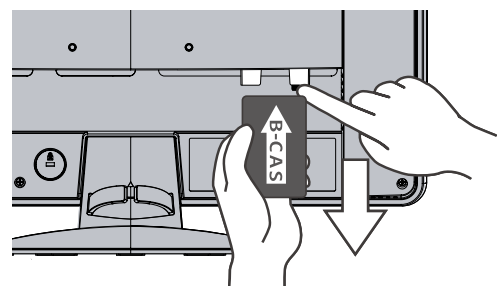
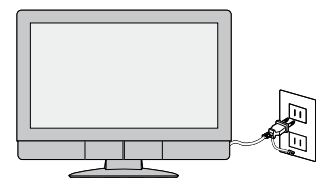
ユーザー登録はがき

または

インターネット

2. B-CAS カードを挿入するカードの向きに注意して奥まで差し込みます。

※ B-CAS カードについて
B-CAS カードは、デジタル放送で放映される番組の著作権保護の管理などに必要なカードです。B-CAS カードは対応するデジタル放送受信機によって種類が異なります。必ず本製品に付属の青い B-CAS カード (地上デジタル専用受信機用) を使用してください。また、B-CAS カードが本製品に挿入されていないと、デジタル放送を受信することができません。紛失、破損などされないよう大切に保管してください。

B-CAS カードの抜き差し

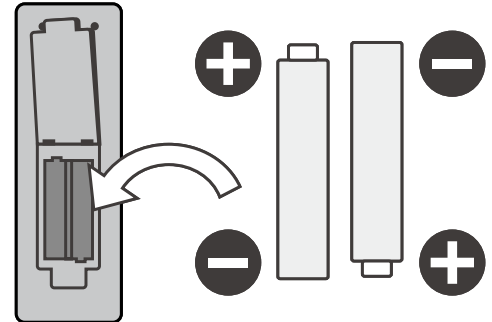
B-CAS カードの抜き差しは、電源ケーブルをコンセントから抜いてから行ってください。視聴中や待機中など、本製品が通電している状態で抜き差しすると、放送波を受信できなくなる場合があります。

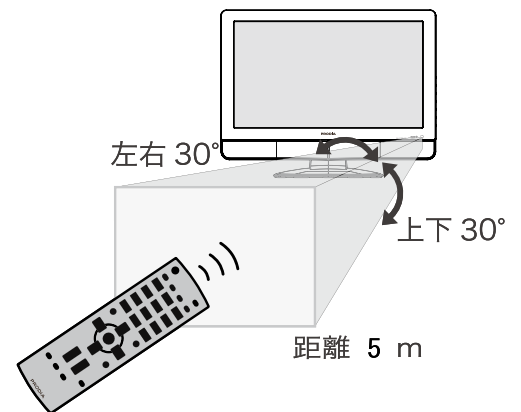
※ B-CAS カードを抜く場合は、ツメを押し下げながら抜き出します。

リモコンを準備する

リモコンに電池を入れます

1. リモコン背面のふたを開けます。

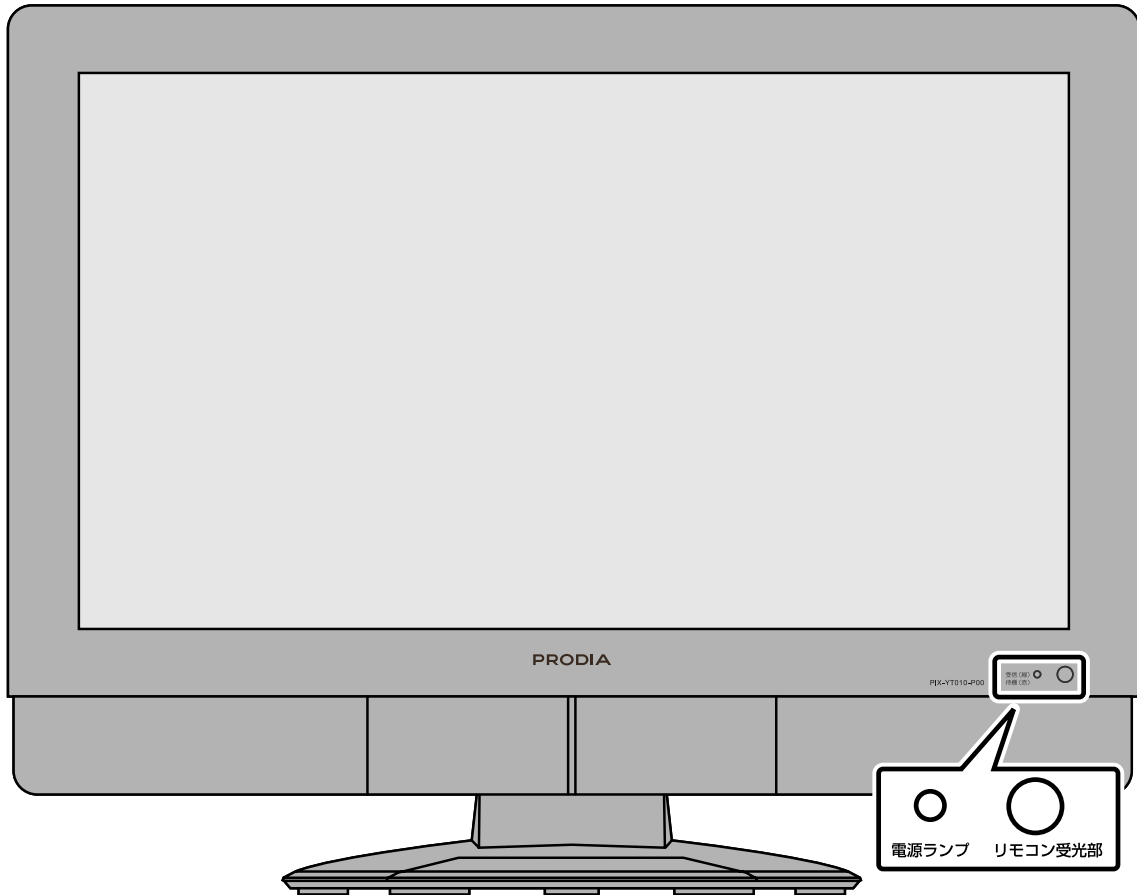
2. 付属の単４乾電池をセットします。電池の＋、－の向きに注意してください。

3. ふたを閉めます。

リモコンの使い方

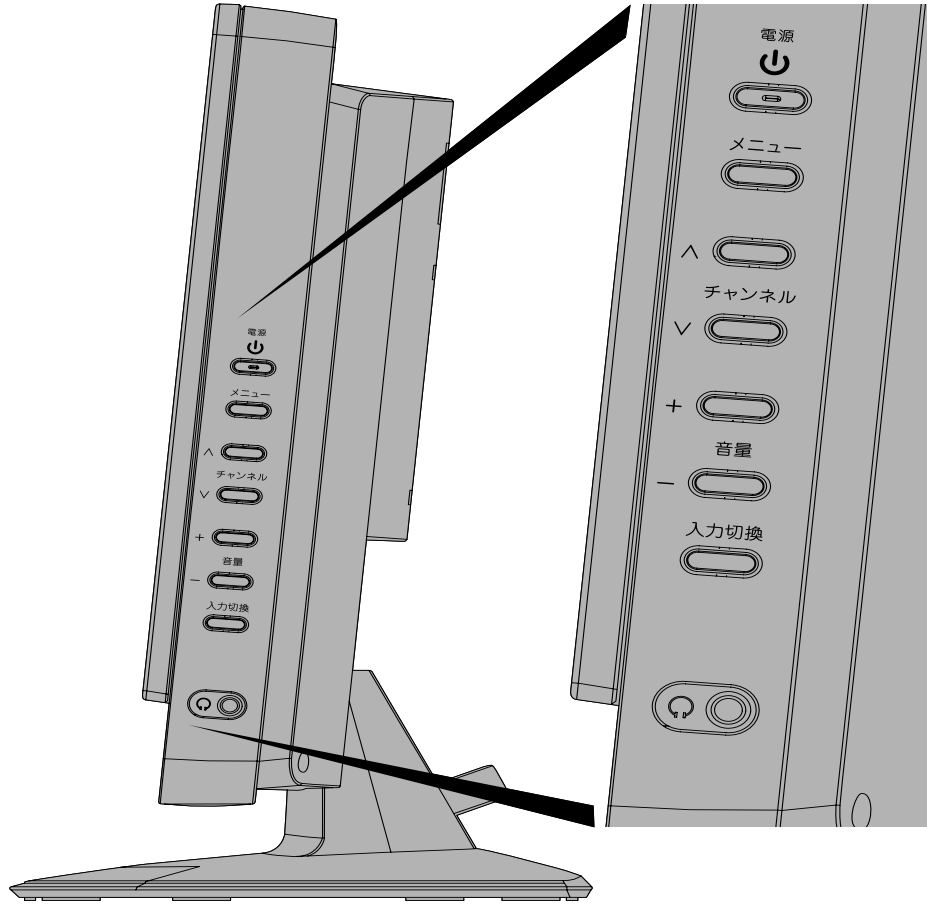
リモコンを操作するときは、リモコンの先端を受光部に向けてください。リモコンは受光部から正面距離で約5m、上下 30°、左右 30°の範囲内で操作できます。

各部の名称

本体

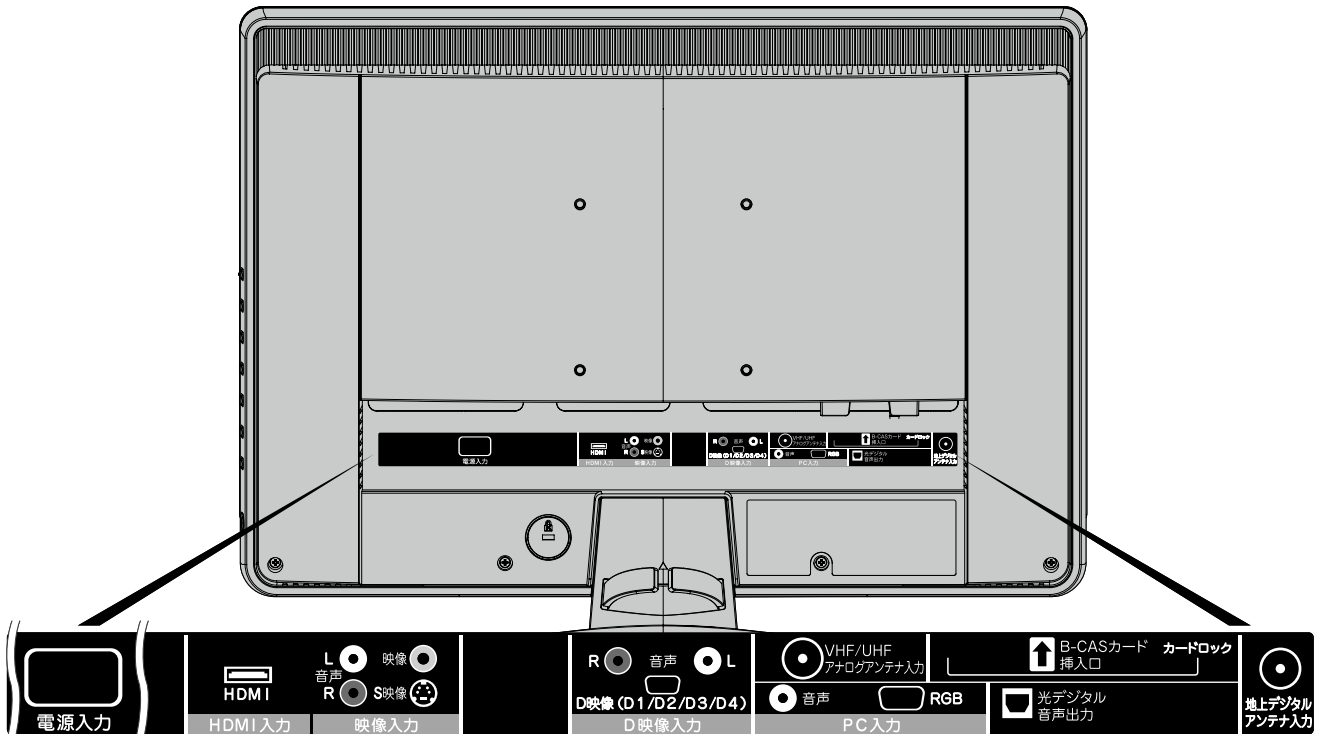
前面

名称と機能

名称	機能
電源ランプ	電源の状態を示します。 緑：オン 赤：スタンバイ
リモコン受光部	リモコンの信号を受信します。

側面

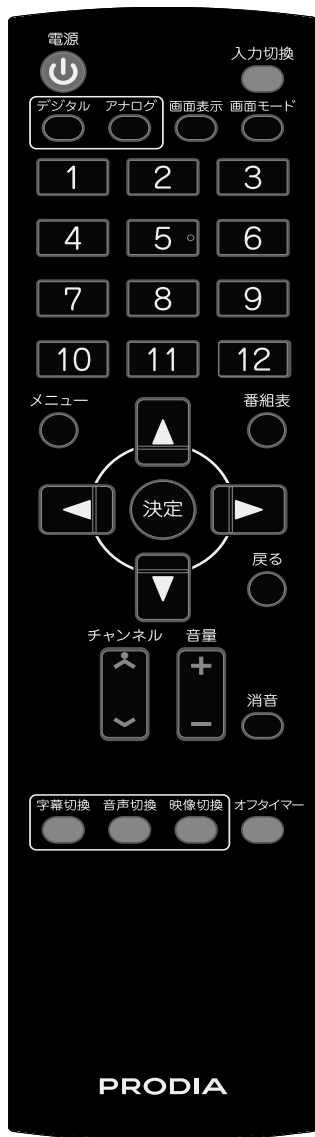
名称と機能

名称	機能
電源ボタン	電源の状態（オン／スタンバイ）を切り換えます。
メニューボタン	設定メニューを表示します。
チャンネル選局ボタン	チャンネルを昇順 / 降順で切り換えます。 また、設定メニュー表示時には、上下の項目を選択するのに使用します。
音量ボタン	音量の調節をします。 また、設定メニュー表示時には、項目を左右に移動する、または選択した項目の内容を調整するのに使用します。
入力切換ボタン	本製品に接続されている機器からの外部入力映像に切り換えます。 また、設定メニュー表示時には項目を決定するのに使用します。
ヘッドホン出力端子	ヘッドホン (別売) などを接続します。

背面

名称と機能

名称	機能	
電源入力	電源ケーブルを接続します。	
HDMI 入力	HDMI ケーブル (別売) を差し込んで対応機器と接続します。	
映像入力	音声 (L/R)	AV ケーブルの赤と白、または音声ケーブル (別売) を接続します。
	映像	AV ケーブルの黄を接続します。
	S 映像	S 映像ケーブル (別売) を接続します。
D 映像入力	D 映像（D1/D2/D3/D4）	D 端子ケーブル (別売) を接続します。
	音声 (L/R)	AV ケーブルの赤と白、または音声ケーブル (別売) を接続します。
VHF/UHF アナログアンテナ入力	アンテナ端子からアナログテレビ用アンテナケーブルを接続します。	
PC 入力	音声	パソコンの音声出力端子からミニステレオ音声ケーブル (別売) を接続します。
	RGB	パソコンの映像出力端子から VGA ケーブル (別売) を接続します。

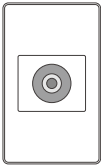
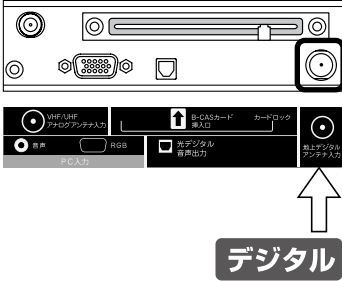
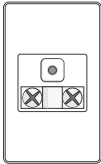
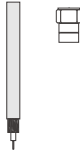
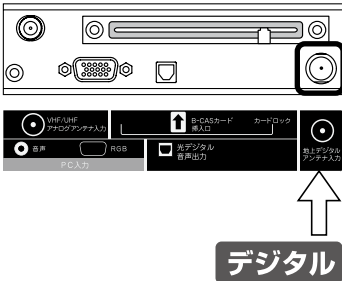
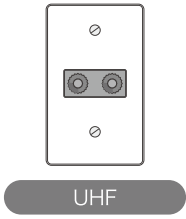
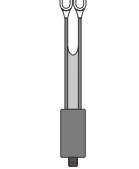
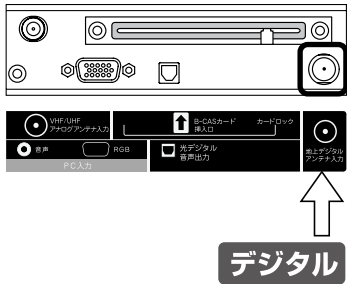
名称	機能
B － CAS カード挿入口	B-CAS カードを差し込みます。
カードロック	B-CAS カードが抜けないようにロックします。
光デジタル音声出力	角型コネクタタイプの光デジタル音声ケーブル (別売) を接続します。
地上デジタルアンテナ入力	アンテナ端子から地上デジタルテレビ用アンテナケーブルを接続します。

リモコン

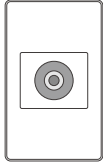
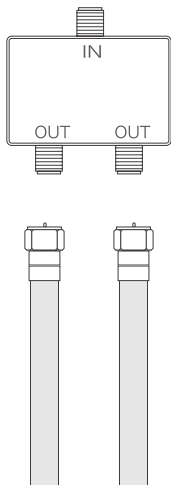
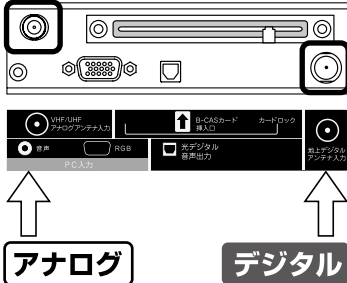
名称と操作

名称	操作
電源	電源の状態（オン／スタンバイ）を切り換えます。
入力切換	本製品に接続されている機器からの映像に切り換えます。
デジタル	デジタル放送に切り換えます。
アナログ	アナログ放送に切り換えます。
画面表示	見ている番組のチャンネル番号・番組名・放送局名などを表示します。

名称	操作
画面モード	映像のアスペクト比など、表示される映像の大きさを切り換えます。
チャンネル（1～12）	チャンネル番号でチャンネルを切り換えます。
メニュー	メニュー画面を表示します。
メニュー操作ボタン （上下左右／決定）	メニュー画面で項目を選んだり、操作を決定します。
番組表	裏番組表／番組表 (EPG) を表示します。
戻る	メニューを表示させている場合に、番組の表示に戻ります。
チャンネル	チャンネルを昇順 (上)/ 降順 (下) で切り換えます。
音量	音量の調節をします。また、消音中は消音を解除します。
消音	消音／消音解除します。
字幕切換	字幕が含まれている番組の場合、字幕の表示 / 非表示を切り換えます。
音声切換	複数の音声が含まれている番組の場合、音声を切り換えます。
映像切換	複数の映像が含まれている番組の場合、映像を切り換えます。
オフタイマー	設定した時間後に電源の状態をスタンバイにします。

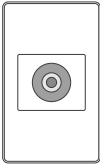
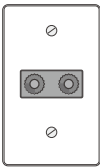
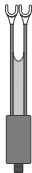
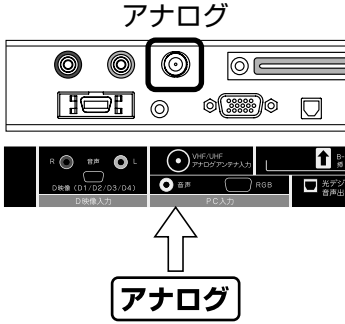
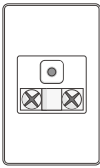
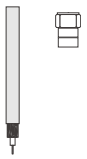
接続する

本製品にアンテナ、各機器などを接続します。本製品を接続作業のしやすい場所に設置して、接続作業を行ってください。

接続の種類

テレビアンテナ

ご自宅の環境を確認しましょう。環境によっては、新しくアンテナを設置する必要がある場合があります。また、集合住宅など、共用アンテナをご利用の場合には、管理会社などにお問い合わせください。

◆ アンテナ端子と接続に必要なもの

デジタルテレビのみ視聴時

放送波の種類と壁面端子	別途必要なもの	本製品の接続端子	視聴できる放送波
プラグ UHF/VHF 混合 UHF UHF/VHF/BS/CS 混合	–	デジタル デジタル	「デジタルテレビを見る」 ☞ P.27
同軸ケーブル直付け UHF/VHF 混合	同軸ケーブル (別売) F 型接栓（別売）	デジタル デジタル	「デジタルテレビを見る」 ☞ P.27

放送波の種類と壁面端子	別途必要なもの	本製品の接続端子	視聴できる放送波
フィーダー線 UHF	整合器 (別売)	デジタル	「デジタルテレビを見る」 ☞ P.27

※　ケーブルテレビをご利用になる場合は、P.30 をご参照ください。

※　BS/CS 放送を視聴する場合は、チューナーを別に接続する必要があります。詳しくは、「その他の機器を接続する」(P.31) をご参照ください。

デジタル + アナログテレビ視聴時

放送波の種類と壁面端子	別途必要なもの	本製品の接続端子	視聴できる放送波
プラグ ケーブルテレビ UHF/VHF 混合	分配器 (別売) アンテナケーブル×2 本 (別売)	デジタル／アナログ	「デジタルテレビ + アナログテレビを見る」 ☞ P.29

※　ケーブルテレビをご利用になる場合は、P.30 をご参照ください。

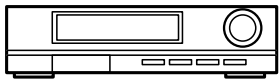
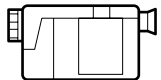
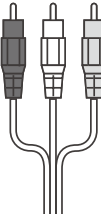
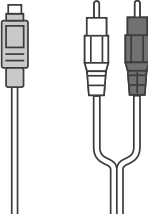
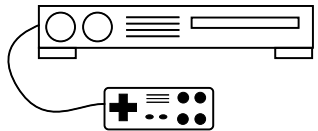
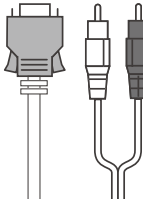
アナログテレビのみ視聴時

放送波の種類と壁面端子	別途必要なもの	本製品の接続端子	視聴できる放送波
プラグ ケーブルテレビ UHF/VHF 混合	—	アナログ	「アナログテレビを見る」 ☞ P.28
フィーダー線 VHF	整合器（別売）	アナログ	「アナログテレビを見る」 ☞ P.28
同軸ケーブル直付け VHF	同軸ケーブル（別売） F 型接栓（別売）	アナログ	「アナログテレビを見る」 ☞ P.28

デジタル放送とアナログ放送で番組内容は違うの？

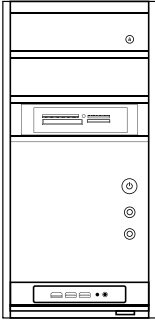
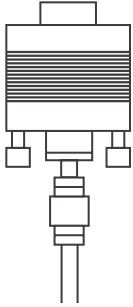
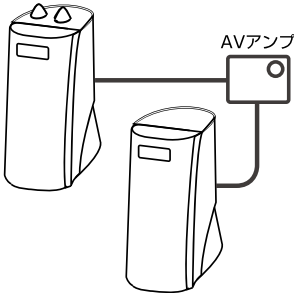
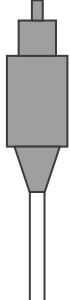
2007 年 7 月現在、デジタル放送とアナログ放送ともに同じ番組が放送されています。番組内容は同じですが、デジタル放送ではハイビジョンの高画質・高音質と多彩な機能を使うことができます。

ケーブルテレビの使用について

ケーブルテレビをご利用の場合は、ケーブルテレビ会社からの配信方式がパススルー方式であれば、本製品を使用できます。配信方式についてはご契約のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

☞ 本製品との接続については、P.30 をご参照ください。

その他の機器

本製品には、テレビのアンテナケーブルのほかに、ビデオデッキ /HDD・DVD レコーダー / パソコン / ゲーム機器など様々な機器を接続できます。本製品に接続したい機器のケーブル端子を確認、準備しましょう。

※ テレビを見るだけで、他の機器を何も接続しない場合は、アンテナと電源ケーブルのみ接続します。

接続する機器と端子

接続する機器	接続できるケーブル端子の種類	接続方法
ビデオデッキ ビデオカメラ DVD プレイヤー ケーブルテレビのセットトップボックス、BS/CS チューナー ゲーム機器	AV ケーブル (赤・白・黄色)	「映像接続」 ☞ P.31
	S 映像ケーブル・音声ケーブル (別売） ※ 音声ケーブルの代わりに AV ケーブルの赤と白を接続して使用できます。	「S 映像接続」 ☞ P.31
	D 端子ケーブル・音声ケーブル (別売） ※ 音声ケーブルの代わりに AV ケーブルの赤と白を接続して使用できます。	「D 端子接続」 ☞ P.32
	HDMI ケーブル (別売）	「HDMI 接続」 ☞ P.32

ケーブルテレビの使用について

ケーブルテレビをご利用の場合は、ケーブルテレビ会社からの配信方式がパススルー方式であれば、本製品を使用できます。
配信方式についてはご契約のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

☞ 本製品との接続については、P.30 をご参照ください。

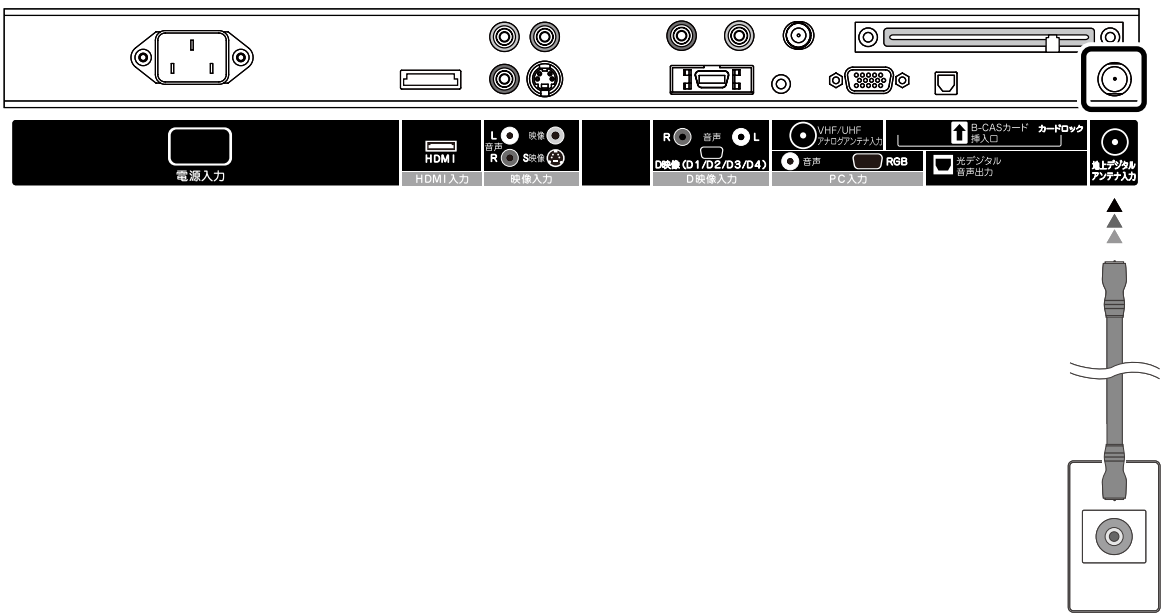
接続する機器	接続できるケーブル端子の種類	接続方法
パソコン	VGA(D-Sub 15pin) ケーブル（別売）	「PC 接続」 ☞ P.33
AV アンプなど	光デジタル音声（角型）ケーブル（別売）	「光デジタル音声接続」 ☞ P.34

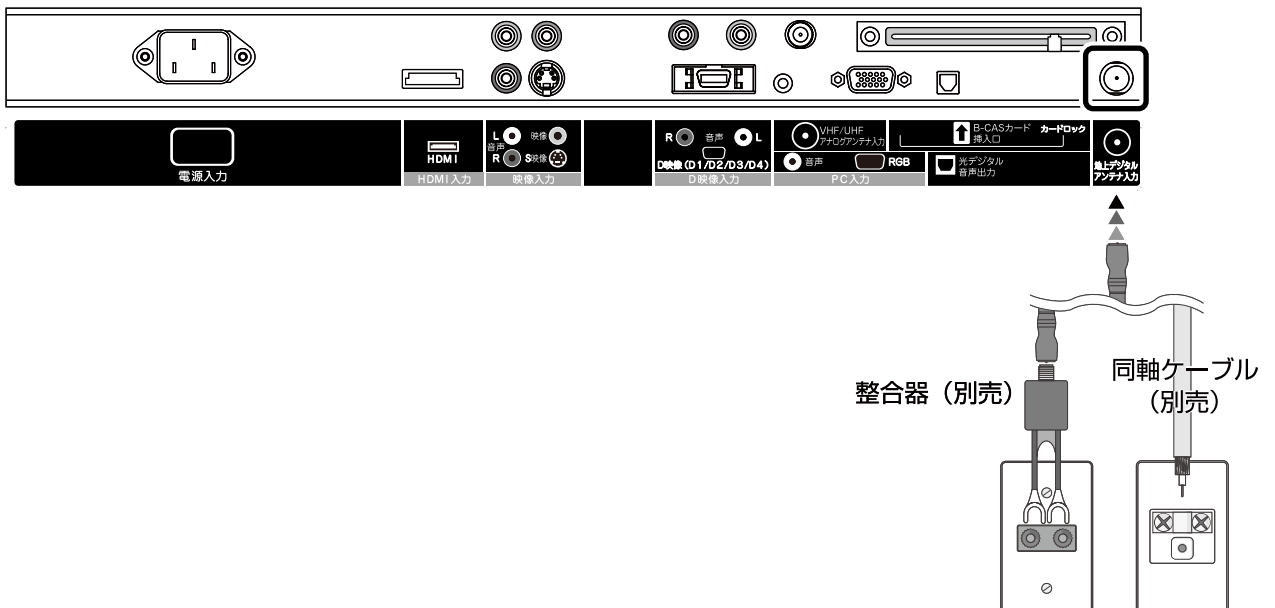
アンテナを接続する

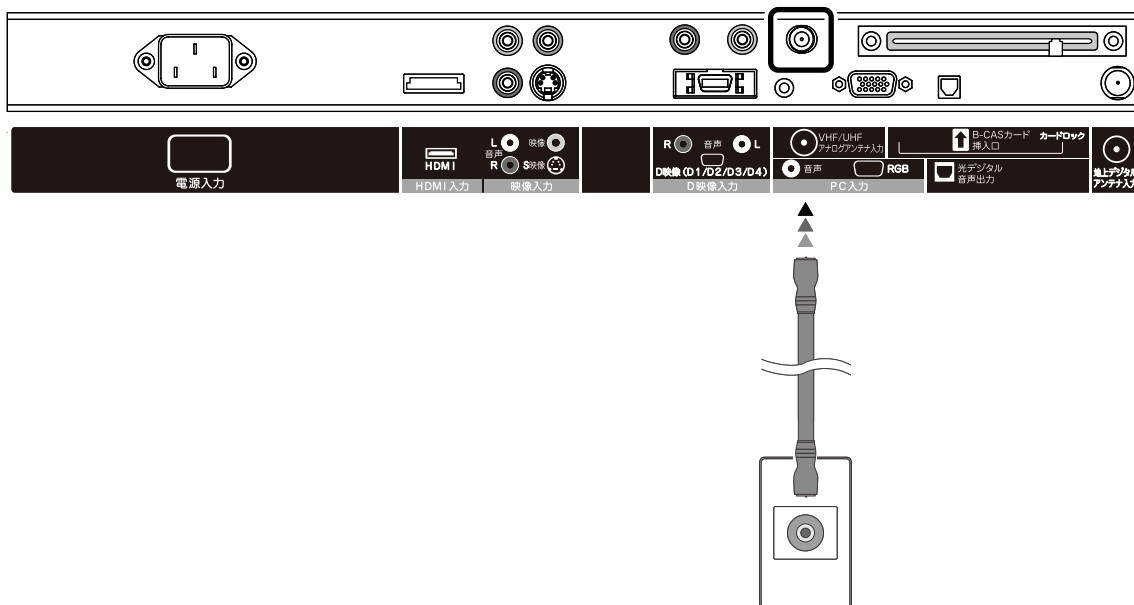
アンテナ入力端子

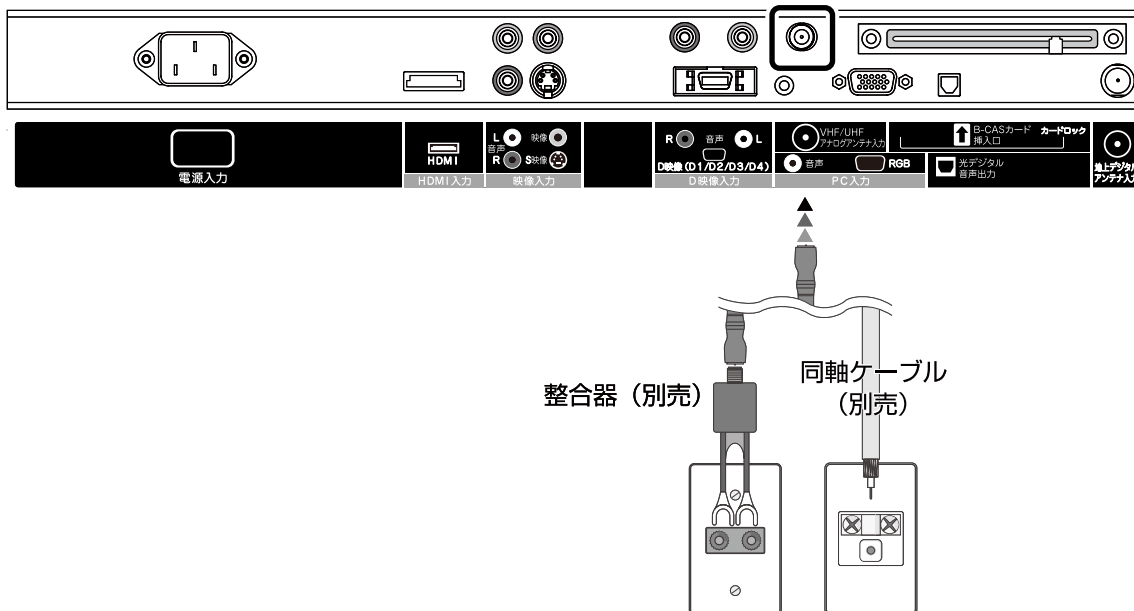
本製品のテレビアンテナ入力端子は、F 型接栓です。本製品には F 型プラグアンテナケーブルが付属しています。壁面端子などの環境によっては、別途、追加のケーブルや整合器などが必要になる場合があります。

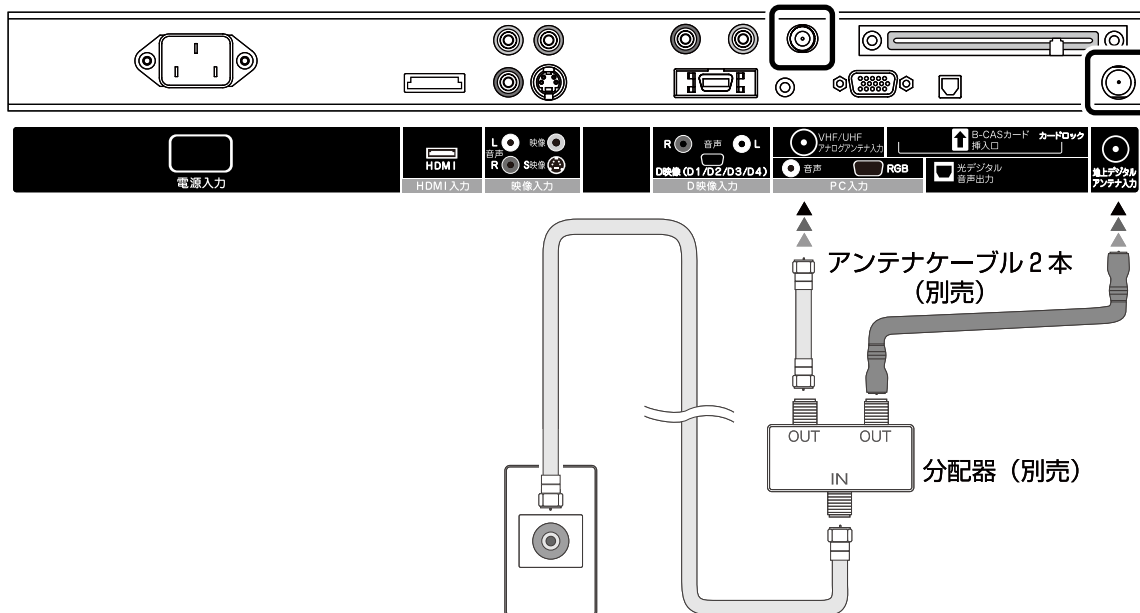
◆ デジタルテレビを見る

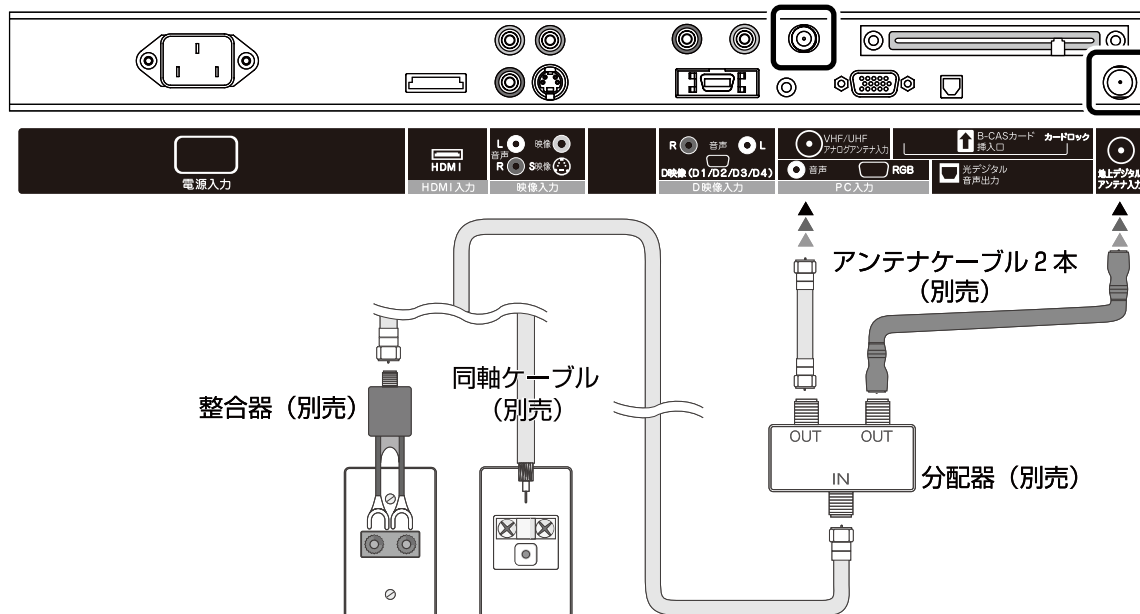
壁面アンテナ端子 (UHF) がプラグ式の場合は付属のアンテナケーブルを地上デジタルアンテナ入力端子に接続します。

壁面端子がプラグ式でない場合

壁面アンテナ端子がプラグ式でない場合は、別途、整合器、同軸ケーブル、F 型接栓などが必要になります。

◆ アナログテレビを見る

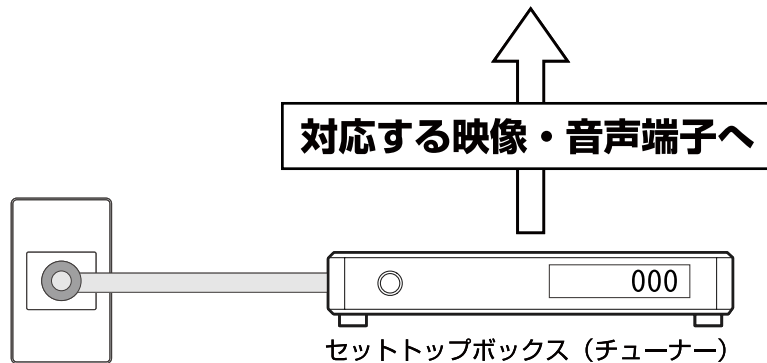
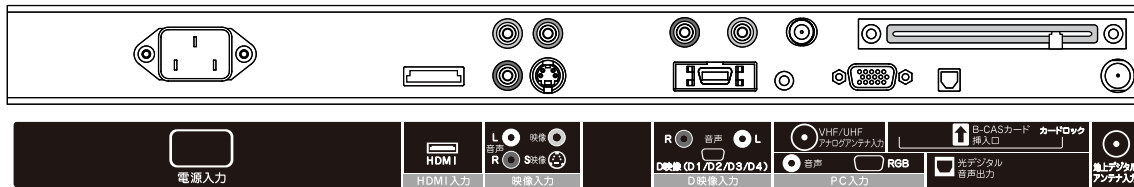
まだデジタル放送が開始されていない地域にお住まいの場合などで、壁面アンテナ端子がプラグ式の場合は、付属のアンテナケーブルをアナログアンテナ入力端子に接続します。

壁面端子がプラグ式でない場合

壁面アンテナ端子がプラグ式でない場合は、別途、整合器、同軸ケーブル、F型接栓などが必要になります。

◆ デジタルテレビ＋アナログテレビを見る

デジタル放送とアナログ放送の両方を受信する場合は、別途、アンテナケーブル２本と分配器を準備してください。１本のアンテナケーブルを地上デジタルアンテナ入力端子に接続、もう片方をアナログアンテナ入力端子に接続します。

壁面端子がプラグ式でない場合

壁面アンテナ端子がプラグ式でない場合は、別途、整合器、同軸ケーブル、F型接栓などが必要になります。

接続する

ケーブルテレビ（セットトップボックス）を接続する

ケーブルテレビのセットトップボックス（チューナー）にアンテナケーブルを接続し、セットトップボックスの映像・音声出力端子と本製品の対応入力端子を接続します。

※ ケーブルテレビ会社がデジタル放送を再送信している場合は、ケーブルテレビでデジタル放送を視聴することができます。デジタル放送の再送信についてはご契約のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

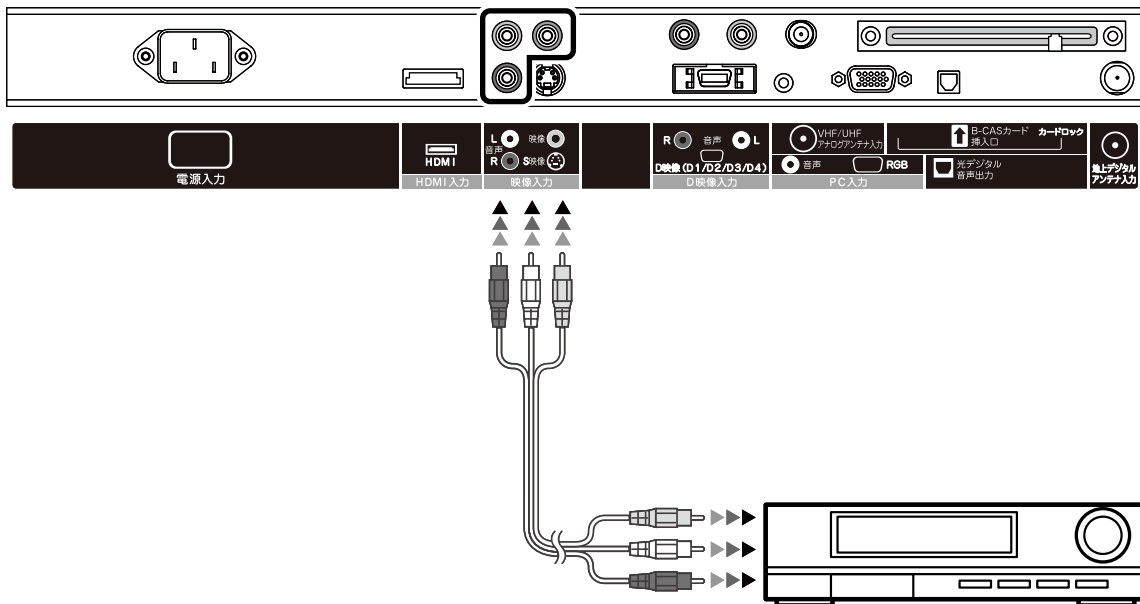
ケーブルテレビの操作

主な操作はケーブルテレビ用のリモコンで行います。詳細は、ケーブルテレビのマニュアルなどをご参照ください。

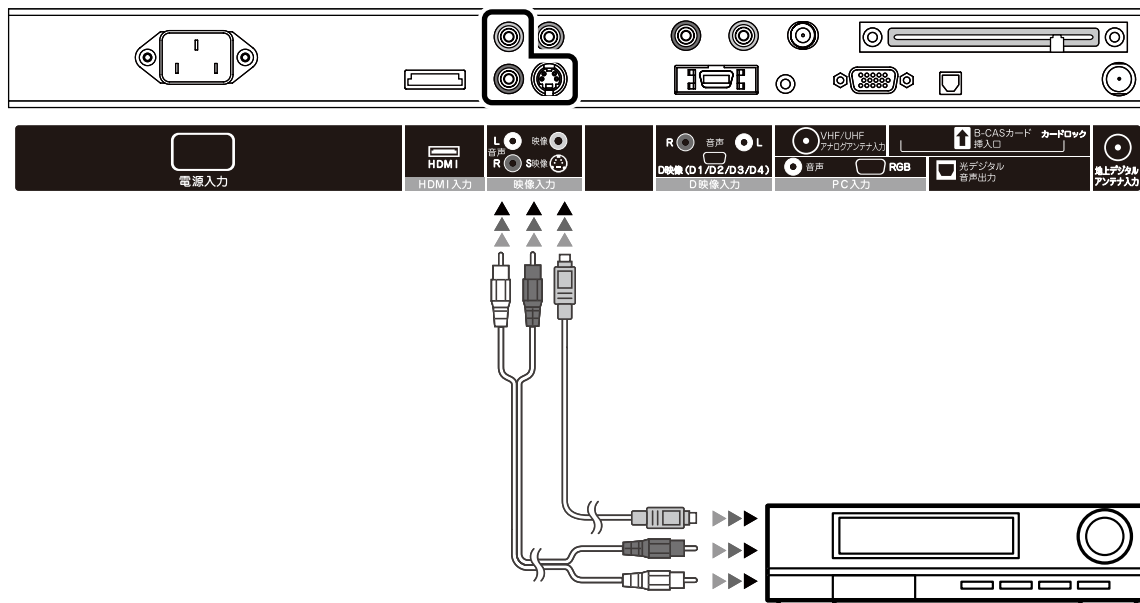
その他機器を接続する

本製品の接続端子は本体裏側にありますので、設置をする前に各機器を接続することをおすすめします。また、すぐに使用しない機器などでも、ケーブルだけを先に接続しておくと便利です。本製品は以下のケーブルを接続できます。

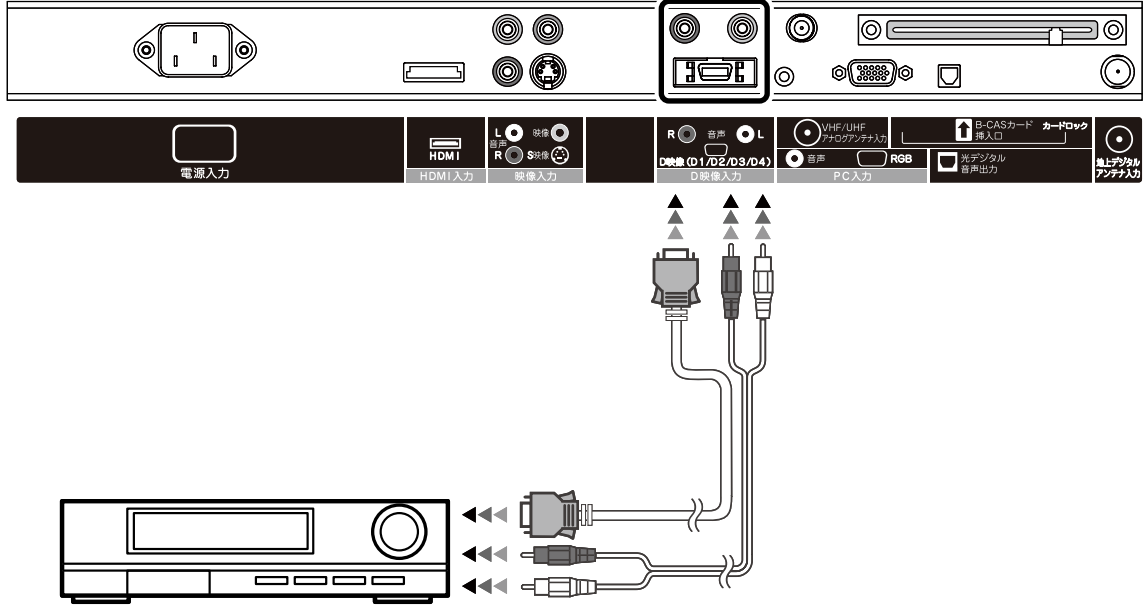
◆ 映像接続

接続する機器から、赤・白・黄色の AV ケーブルを本製品の映像入力端子 (黄色)、音声 L/R 入力端子 (白・赤) にそれぞれ接続します。

◆ S 映像接続

接続する機器が S 映像ケーブルに対応していれば、S 映像ケーブル（別売）を本製品の S 映像入力端子に、赤･白の音声ケーブルを本製品の音声 L/R 入力端子 (白･赤) にそれぞれ接続します。

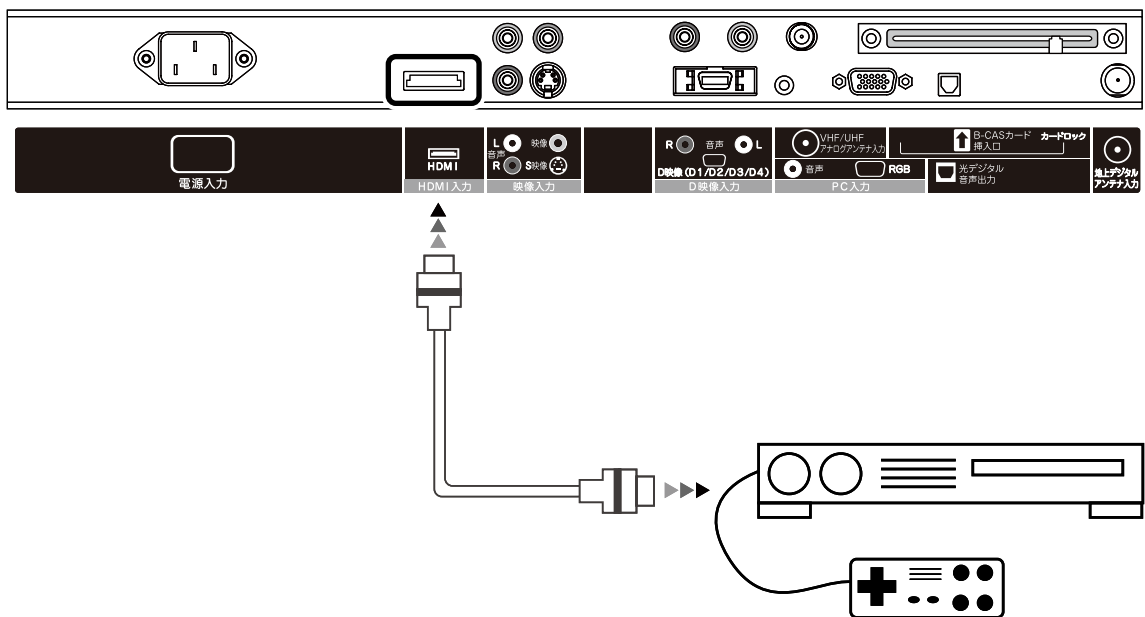
※ 音声ケーブルの代わりに本製品に付属の AV ケーブルの赤と白だけを接続して使用できます。

◆ D 端子接続

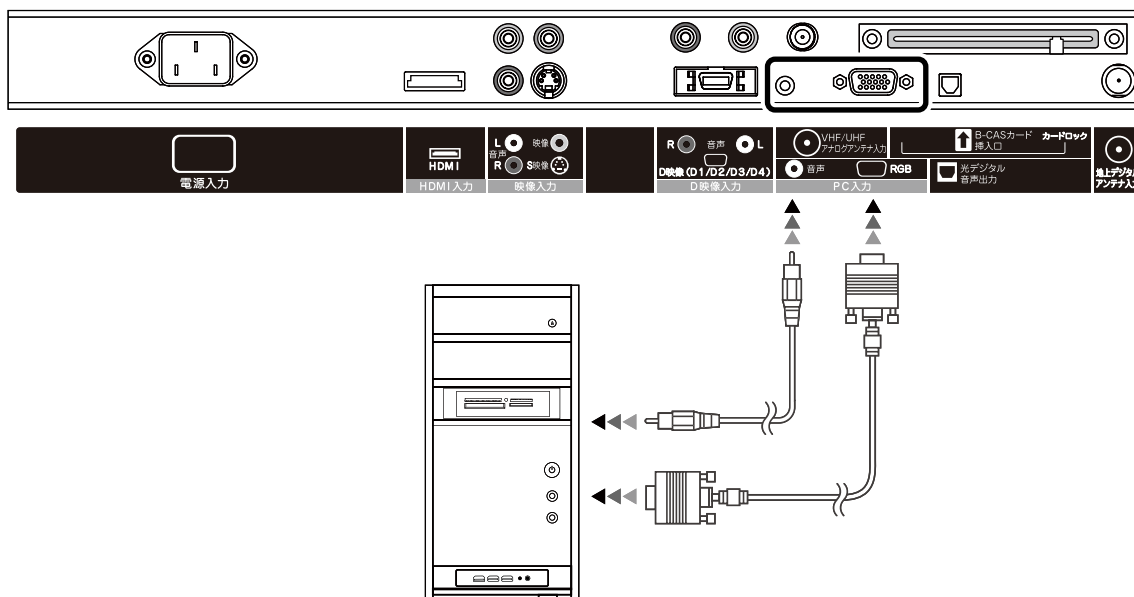
接続する機器が D 端子ケーブルに対応していれば、D 端子ケーブル（別売）を本製品の D 映像入力端子に、赤・白の音声ケーブルを D 端子入力の音声 R/L の端子 (赤・白) にそれぞれ接続します。

※ 音声ケーブルの代わりに本製品に付属の AV ケーブルの赤と白だけを接続して使用できます。

D 端子の規格

本製品の D 端子の規格は D4 です。D1 から D4 規格の端子を持った機器に接続できます。

◆ HDMI 接続

接続する機器が HDMI ケーブルに対応していれば、HDMI ケーブル（別売）を本製品の HDMI 入力端子に接続します。音声ケーブルを接続する必要はありません。

◆ PC 接続

パソコンをアナログ接続する場合、VGA ケーブル（別売）を本製品の PC 映像入力（RGB）端子、ステレオミニプラグの音声ケーブル（別売）を PC 音声入力端子に接続します。

接続パソコン対応形式

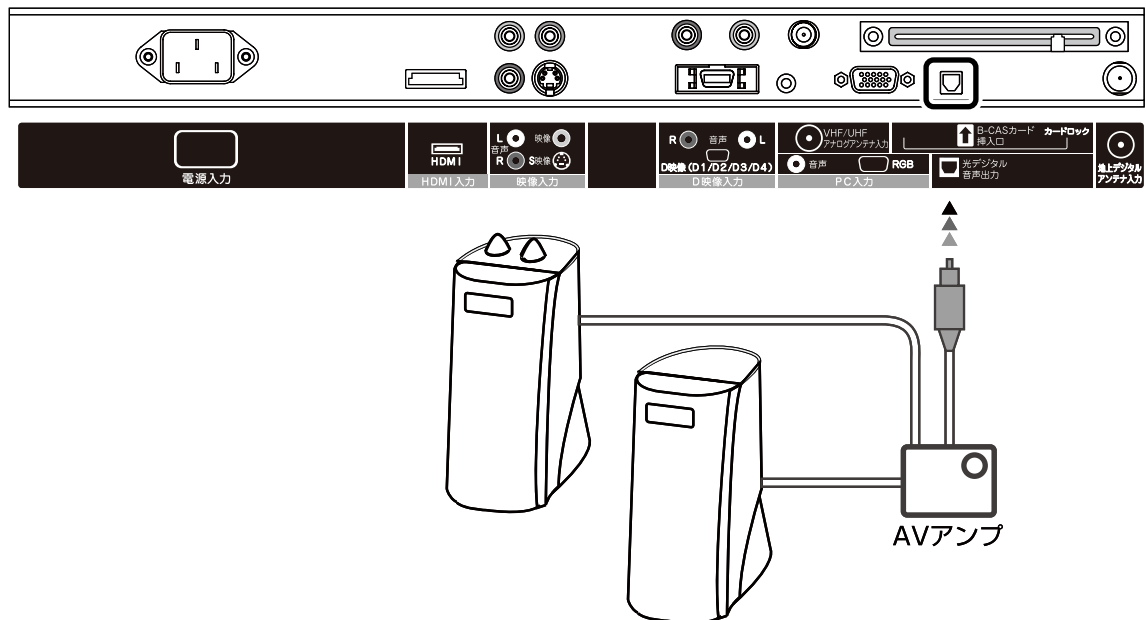
下記の対応形式をご確認の上、接続してください。

解像度	リフレッシュレート
640x480	60Hz または 75Hz
720x400	70Hz
800x600	60Hz、75Hz、または 85Hz
1024x768	60Hz または 75Hz
1366x768	60Hz ＊推奨

パソコン側の設定について

パソコン側で、外部への出力設定をする必要があります。詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご参照ください。

◆ 光デジタル音声接続

AV アンプなどが角形の光音声デジタルケーブル（別売）に対応していれば、本製品に接続して、臨場感のある音声を楽しむことができます。光音声デジタルケーブルを本製品の光デジタル音声入力端子に接続します。

光デジタル音声出力は、デジタル放送視聴中に使用できます。

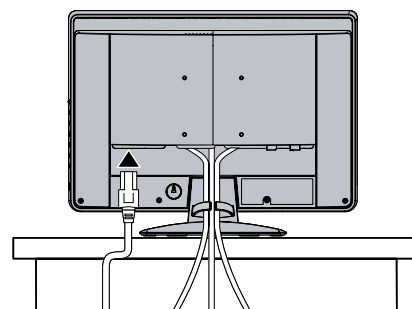
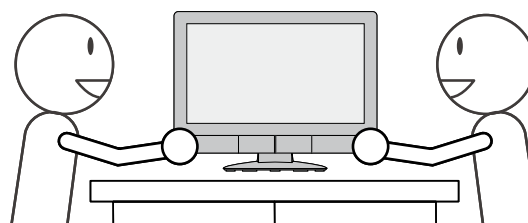
電源を接続する

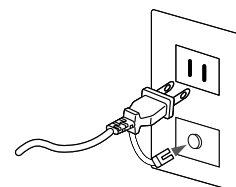
アンテナや各機器の接続が終わったら、付属の電源ケーブルを電源入力に接続します。

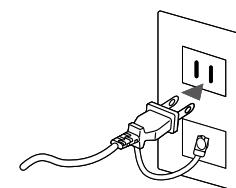
電源を接続する際のご注意

アース接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行って下さい。また、アース接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行って下さい。

電源ケーブルを接続します

1. 本製品の電源入力に電源ケーブルを接続する

2. 本製品を設置する

3. 壁面のコンセントにアースを接続する

※ アース端子がない場合は、販売店や電気店にご相談ください。

4. 壁面のコンセントに電源プラグを差し込む

▶ アンテナ、各機器、電源接続が終了したら、本製品の電源を入れます。

テレビを見る

基本的な操作

本製品の基本的な操作はすべてリモコンで行います。

電源を入れる / 切る

電源を入れます

[電源] ボタンを押します。

▶ 本製品の電源が入り、本体の電源ランプが緑に点灯します。

電源を切ります（スタンバイ）

[電源] ボタンを押します。

▶ 本製品の電源がスタンバイになり本体の電源ランプが赤に点灯します。

本製品の電源を完全に切りたいときは

リモコンや本体の電源ボタンを押すと、本製品はスタンバイになります。長期間ご使用にならない場合など、電源を切りたいときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

本体のボタンで操作する

本製品の電源は本体の [電源] ボタンでも操作できます。

チャンネルを切り換える

チャンネルの切り換えには 2 つの方法があります。

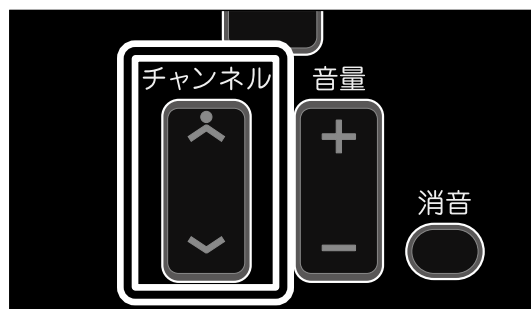
ダイレクト選局

[1] ～ [12] ボタンを押します。

▶ 押した番号のチャンネルに切り換わります。

アップ / ダウン選局

[上] ボタン (昇順) または [下] ボタン (降順) で 1 局ずつ切り換えます。

▶ チャンネルが順に切り換わります。

本体のボタンで操作する

本製品のチャンネル切り換えは本体のチャンネル [上][下] ボタンでも操作できます。

音量を調節する

音声を大きくします

[+] ボタンを押します。

音声を小さくします

[−] ボタンを押します。

本体のボタンで操作する

本製品の音量は本体の音量 [+][−] ボタンでも操作できます。

消音します

[消音] ボタンを押します。もう一度押すと、消音が解除されます。

※ 消音中は、画面に [ ] 消音マークが表示されます。

消音を解除する

消音中は [音量] ボタン（[+] または [−]）でも消音を解除できます。

番組情報を表示する

視聴中の番組の情報を確認します

[画面表示] ボタンを押します。

▶ チャンネル番号、番組名、放送局名などが表示されます。

デジタルテレビ

本製品のデジタルテレビ端子にアンテナを接続していれば、デジタル放送を見ることができます。

デジタル放送を見る

アナログテレビが表示されている場合は、[デジタル] ボタンを押します。

チャンネル設定

はじめてデジタル放送を見るとき、引っ越しなどで放送受信地域が変わったときなどは、受信するチャンネルの設定が必要です。

※ はじめてデジタル放送を見るときは、手順３から設定を行います。

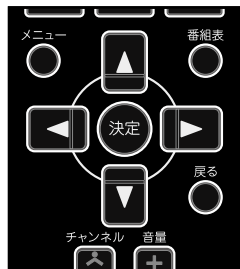
1. 設定メニューを表示します

[デジタル] ボタンを押してから、[メニュー] ボタンを押します。

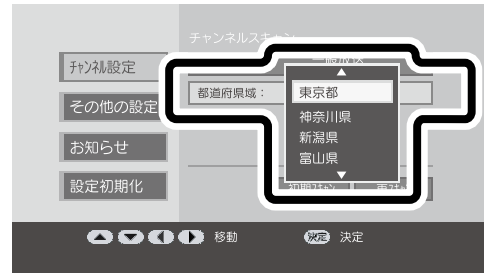
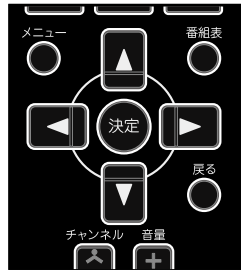
2. [デジタル設定] を選びます

[デジタル設定] を選んで [決定] ボタンを押します。

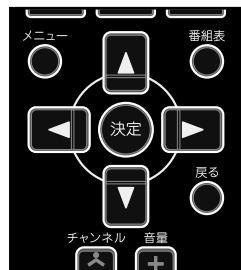
3. 受信する放送を選びます

1. [受信する放送] が選択されていることを確認して、[決定] ボタンを押す
2. [一般放送] か [CATV] を選んで [決定] ボタンを押す

※ 壁面からケーブルテレビのアンテナを接続している場合は [CATV] を、それ以外の場合は [一般放送] を選んでください。

4. 地域を設定します

1. [都道府県域] を選んで [決定] ボタンを押す
2. お住まいの地域を選んで [決定] ボタンを押す

5. チャンネルスキャンを開始します

[初期スキャン] を選んで [決定] ボタンを押します。

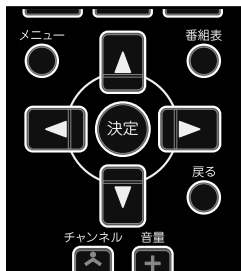
※ チャンネルスキャンには数分かかります。

6. リモコンボタンの割り当てを変更します

リモコンの [1] ～ [12] の数字ボタンにお好みの放送局を割り当てます。そのままでよければ、[メニュー] ボタンを押してテレビ画面に戻ります。

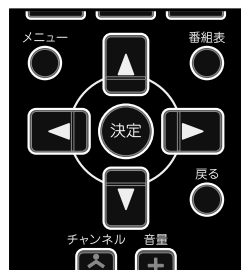
1. 割り当てを変更したいチャンネルを選んで、[決定] ボタンを押す
2. 変更するチャンネルを選んで、[決定] ボタンを押す

※ この操作を必要なだけ繰り返します。

3. [メニュー] ボタンを押す

▶ デジタルテレビ放送が表示されます。

チャンネルの再スキャンについて

お住まいの地域で新しく放送局が追加されたときは、下記の手順で再スキャンを行います。

1.[デジタル] ボタンを押す
2.[メニュー] ボタンを押す
3.[デジタル設定] を選択する
4.[チャンネル設定] を選択する
5.[チャンネルスキャン] を選択する
6. 受信する放送波、お住まいの地域を選択する
7.[再スキャン] を選択する

番組表を使う

デジタル放送には放送波に番組表のデータが含まれています。このデータを元に作成された電子番組表 (EPG) を画面上に表示することができます。番組表には 2 種類の表示があります。

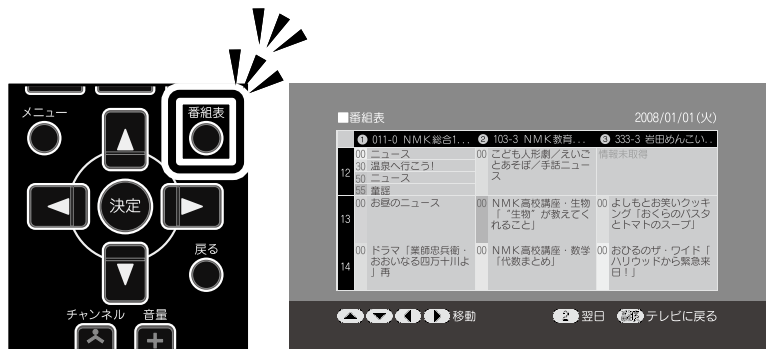
裏番組表を表示します

[番組表] ボタンを押します。

▶ 現在、他のチャンネルで放送されている番組の一覧 (裏番組表) が表示されます。

番組表を表示します

[番組表] ボタンを 2 回押します。

▶ 現在の時刻以降の番組表が表示されます。

番組表の取得

番組表は放送波を通じて、自動的に本製品に読み込まれます。本製品がスタンバイ状態 ([電源] ランプが赤) のとき、受信できるすべての放送局の番組表を読み込みます。また、電源が入っている状態で、同一のチャンネルを一定時間視聴していると、放送波から番組表を取得します。この場合、チャンネルを合わせていた放送局の番組表だけが読み込まれます。

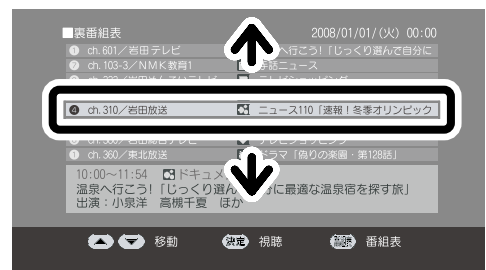
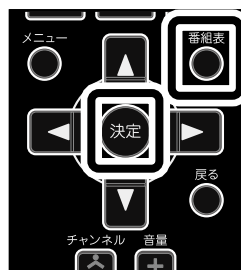
裏番組表から視聴する番組を選びます

1. [番組表] ボタンを押す

   ▶ 裏番組表が表示されます。

2. リモコンで見たい番組を選ぶ

3. [決定] ボタンを押す

   ▶ 選択した番組が表示されます。

デジタル機能

デジタル放送とは？

デジタル放送とは、デジタルハイビジョンの高画質・高音質でテレビ番組を見たり、データ放送や字幕表示など、さまざまなサービスを受けることができるテレビ放送です。デジタル放送は 2003 年から放送が開始され、2006 年 12 月には全国すべての県庁所在地で放送が開始されています。今後も放送エリアを拡大し、2011 年 7 月までに現在のアナログ放送は、デジタル放送に移行することが決定されています。

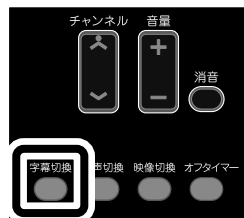
※ 本製品ではデジタル放送の機能の一部をご利用できます。

デジタルならではの機能を使用する

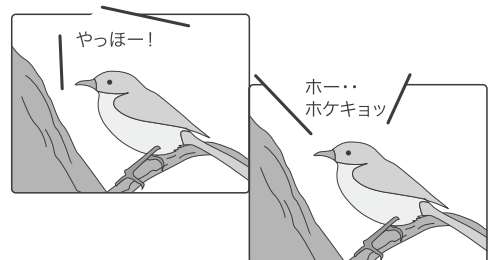
地上デジタルで放送される番組の中には、字幕、複数の音声、複数のアングルから撮影した映像などが含まれている番組があります。

◆ 字幕を表示する

番組の中に字幕が含まれている場合、字幕の表示 / 非表示を切り換えることができます。

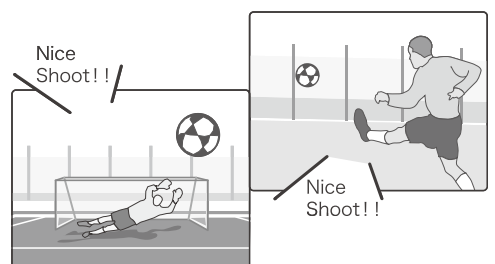
[字幕切換] ボタンを押すたびに、字幕の表示 / 非表示が切り換わります。字幕言語が 2 つある場合は、字幕言語 1 →字幕言語 2 →非表示の順番で切り換わります。

◆ 音声を切り換える

番組の中に複数の音声が含まれている場合、別の音声に切り換えることができます。

[音声切換] ボタンを押すたびに、別の音声に切り換わります。

◆ 映像を切り換える

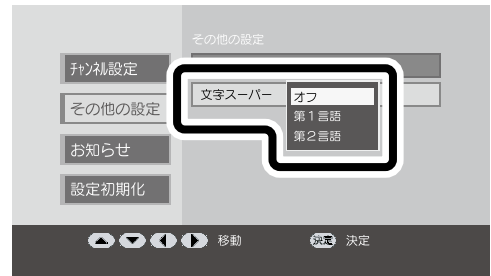
番組の中に複数の映像が含まれている場合、別の映像に切り換えることができます。

[映像切換] ボタンを押すたびに、別の映像に切り換わります。

テレビを見る

◆ 文字スーパーを表示する

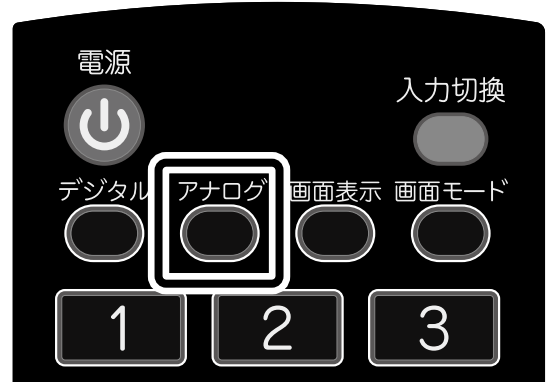
文字スーパーは、見ている番組とは連動せずに災害情報などが表示されます。本製品では、設定メニューから文字スーパーの表示設定が選択できます。

1. [メニュー] ボタンを押す
2. [デジタル設定] を選択する
3. [その他の設定] を選択する
4. [文字スーパー] を選択する

▶ [オフ]、[第１言語]、[第２言語] から選択できます。

アナログテレビ

本製品のアナログテレビ端子にアンテナを接続していれば、アナログ放送を見ることができます。

アナログ放送を見る

デジタルテレビが表示されている場合は、[アナログ] ボタンを押します。

チャンネル設定

はじめてアナログ放送を見るとき、引っ越しなどで放送受信地域が変わったときなどは、受信するチャンネルの設定が必要です。

※ はじめてアナログ放送を見るときは、手順３から設定を行います。

1. 設定メニューを表示します

[アナログ] ボタンを押してから、[メニュー] ボタンを押します。

2. [アナログ設定] を選びます

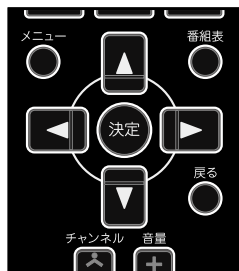
[アナログ設定] を選んで [決定] ボタンを押します。

3. 受信する放送波を選びます

1. [地上アナログ／ CATV] を選んで [決定] ボタンを押す

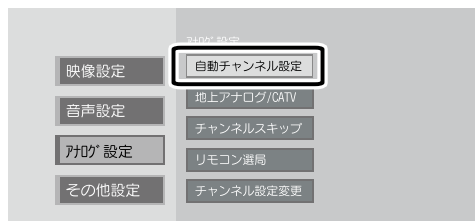
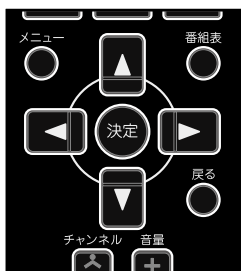
2. [地上アナログ] か [CATV] を選んで [決定] ボタンを押す

※ 壁面からケーブルテレビのアンテナを接続している場合は [CATV] を、それ以外の場合は [地上アナログ] を選んでください。

テレビを見る

4. 自動でチャンネルを登録します

[自動チャンネル設定] を選んで [決定] ボタンを押す

▶ アナログ放送のチャンネルスキャンが開始されます。

※ チャンネルスキャンには数分かかります。

5. [メニュー] ボタンを押します

▶ アナログ放送が表示されます。

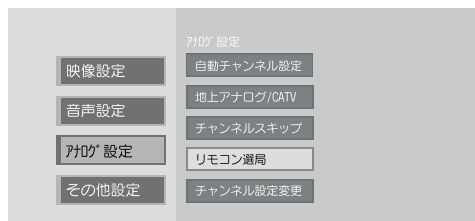
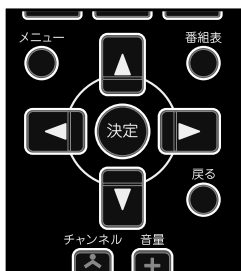
チャンネルの再設定について

引っ越しなどでお住まいの地域が変わった場合などは、上記の手順で再度自動チャンネル設定を行います。

テレビを見る

リモコンの選局方法を変更する

リモコンの数字ボタンを押して、チャンネルを選ぶときの方法を変更できます。

1. [メニュー] ボタンを押します。
2. [アナログ設定] を選びます。
3. [リモコン選局] を選び、[ダイレクト] または [10 キー] を選んで [決定] ボタンを押します。

ダイレクトと 10 キーの違い

ダイレクト

放送局に割り当てられたチャンネルの番号ボタンを押すとチャンネルが切り換わります。

※ アナログ放送の通常の使用方法です。

10 キー

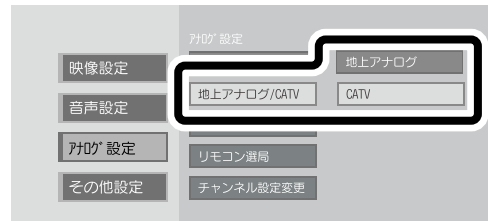
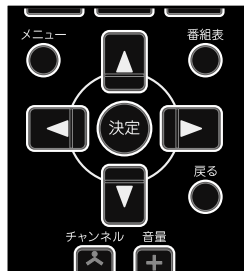
チャンネルの番号を数字で入力して選局します。

ケーブルテレビ（アナログ）を見る

ケーブルテレビをご利用の場合は、最初に下記の設定が必要です。

ケーブルテレビを利用している場合の初期設定

1. リモコンの [アナログ] ボタンを押してから、[メニュー] ボタンを押します。
2. [アナログ設定] を選択します。
3. [地上アナログ／ CATV] で [CATV] を選択し、[決定] ボタンを押します。
4. [メニュー] ボタンを押します。

▶ ケーブルテレビが表示されるようになります。

ケーブルテレビの使用について

ケーブルテレビをご利用の場合は、ケーブルテレビ会社からの配信方式がパススルー方式であれば、本製品を使用できます。配信方式についてはご契約のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

◆ ケーブルテレビを見る

初期設定終了後、テレビが表示されている場合は、リモコンの [入力切換] ボタンを押します。

セットトップボックスなどから、D 端子や AV ケーブルで接続した場合は、[入力切換] ボタンで、該当の入力を選択すると、ケーブルテレビを視聴できます。

入力の切り換え

テレビに接続した機器の映像を表示する場合は、リモコンで入力の切り換えを行います。

接続機器の映像を表示します

リモコンの [入力切換] ボタンを押します。

▶ 下記の順に入力機器が切り換わります。
デジタル→ S 映像→映像→ D 映像→ PC → HDMI →デジタル ...
アナログ→ S 映像→映像→ D 映像→ PC → HDMI →アナログ ...

※ 入力が切り換わるのに少し時間がかかります。

入力切り換え後の操作

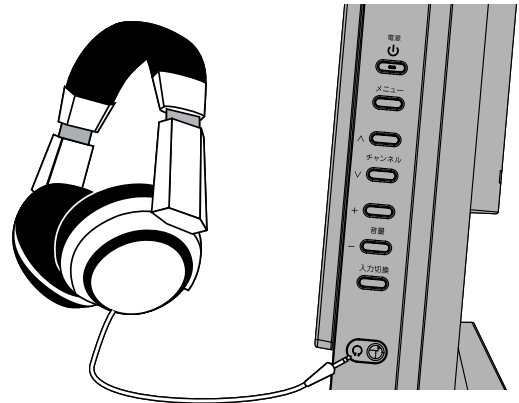
入力切り換え後は、接続機器を操作します。また、テレビに切り換えたいときは、リモコンの [デジタル] ボタン、[アナログ] ボタンを押すと、簡単にテレビに切り換えることができます。

便利な機能

ヘッドホンを使用する

本体右側面のヘッドホン端子 (ステレオミニプラグ) にヘッドホンまたはイヤホンを接続します。

音量を大きくしている場合

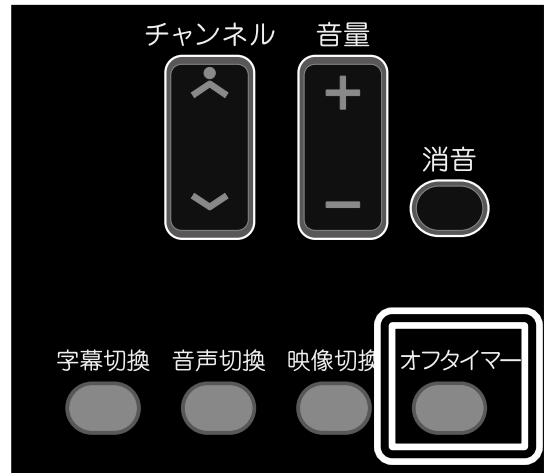
ヘッドホンを取りはずす場合は、音量にご注意ください。

オフタイマー

タイマーを設定して、設定した時間に本製品の電源を切ります。

自動的に電源をオフにします

リモコンの [オフタイマー] ボタンを押します。

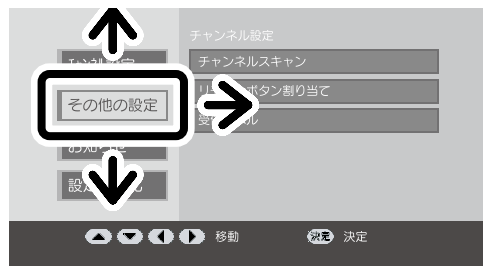
▶ 押すたびに、タイマー設定時間が下記の順に切り換わります。

※ オフ→ 30 分→ 60 分→ 90 分→ 120 分→オフ ...

メニュー画面の操作

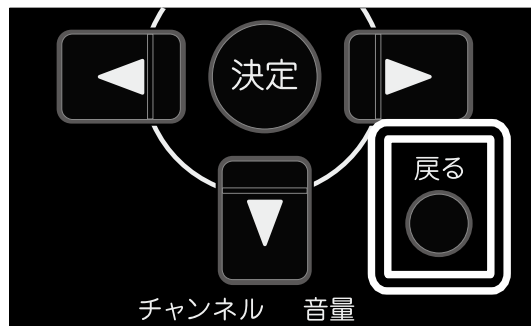
オレンジ色の部分が現在選択されている項目です。

メニューを操作します

メニューの操作はリモコンの[上]/[下]/[左]/[右]/[決定] ボタンで行います。

[上]/[下]/[左]/[右] ボタン : 選択項目 (オレンジ色) を移動します。
[決定] ボタン : 選択項目 (オレンジ色) を実行します。

※ 項目によっては、サブメニューが表示されます。サブメニューでは [上]/[下] ボタンで項目を選んで、[決定] ボタンで選択します。

メニュー画面からテレビ視聴に戻ります

テレビ画面に戻るときは、[戻る] ボタンを押します。

ケーブルテレビの使用について

ケーブルテレビをご利用の場合は、ケーブルテレビ会社からの配信方式がパススルー方式であれば、本製品を使用できます。
配信方式についてはご契約のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

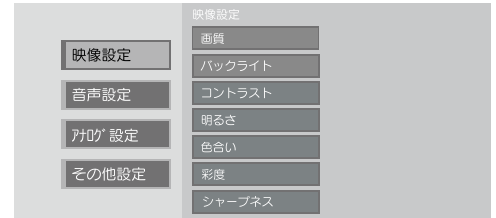
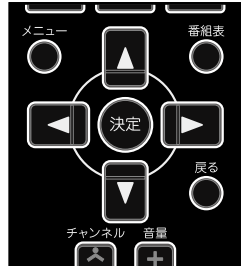
いろいろな設定

画面表示の調整をする

画面の色合いや、明るさなど、表示の設定を調整したいときは、設定メニューから項目を選択して調整します。

1.[メニュー] ボタンを押します。

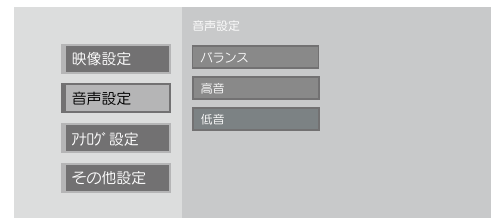
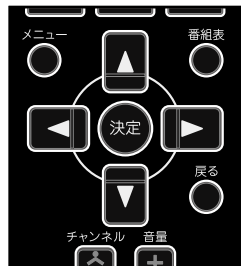
2.[映像設定] を選びます。

3. 設定を変更したい項目を選択し、リモコンの [左][右] ボタンで、調節します。

音声の調整をする

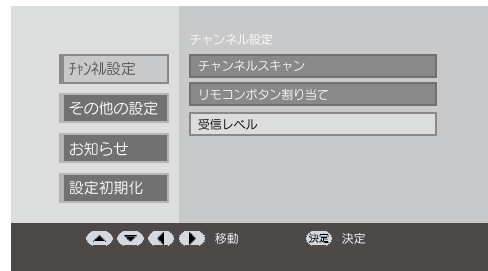
本製品のスピーカーから出力される音声を調整したいときは、設定メニューから調整します。

1.[メニュー] ボタンを押します。

2.[音声設定] を選びます。

3. 設定を変更したい項目を選択し、[左][右] ボタンで、調節します。

映像受信レベルを確認する（デジタルテレビ）

映りの悪いチャンネルの受信レベルを確認します。

1. [デジタル] ボタンを押します。
2. [メニュー] ボタンを押します。
3. [デジタル設定] を選びます。
4. [チャンネル設定] を選び、[受信レベル] を選んで [決定] ボタンを押します。

▶ 現在選択しているチャンネルの受信レベルが表示されます。

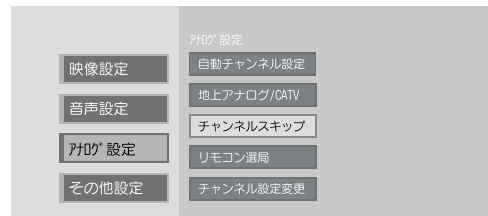
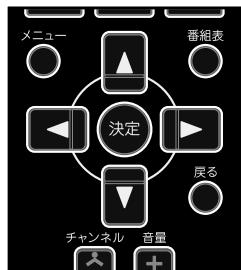
受信レベルの目安

受信レベルが 60 以上が正常に受信できている目安です。受信レベルは、天候やアンテナの向きなどによって変化します。

いろいろな設定

チャンネルをスキップする（アナログテレビ）

[上][下] のチャンネルボタン操作をするときにスキップするようにできます。

1. スキップしたいチャンネルを表示させます。
2. [メニュー] ボタンを押します。
3. [アナログ設定] を選びます。
4. [チャンネルスキップ] を選び、[オン] を選んで [決定] ボタンを押します。

▶ 選択していたチャンネルがスキップされるようになります。

画面モードを切り換える

映像によって、画面モードを切り換えることができます。

[画面モード] ボタンを押します。

▶ 下記のモードに画面表示が切り換わります。

各画面モードについて

各画面モードには下記のような特長があります。

モード	内容
16:9	4:3 の映像が横に引き延ばされます。
4:3	4:3 の映像は左右に黒帯が表示されます。

画面モードが変わらない場合

デジタル放送や、元々のアスペクト比が 16：9 の映像は、[画面モード] ボタンを押しても表示は変わりません。

いろいろな設定

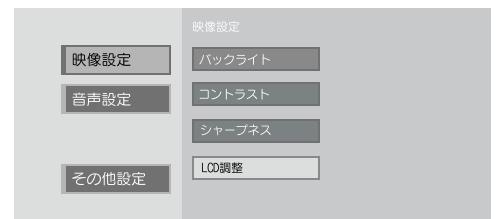
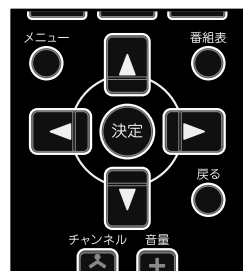
パソコン画面の調整をする

本製品にパソコンを接続しているときは、画面位置など、画面の表示設定ができます。

1.[メニュー] ボタンを押します。

2.[映像設定] を選びます。

3.[LCD 設定] を選びます。

4. 設定を変更したい項目を選択し、
[左][右] ボタンで、調節します。

設定メニュー

リモコンの [メニュー] ボタンを押すと、画面表示設定など、下記の項目を設定する画面が表示されます。
メニュー一覧表で表示したい画面がどこにあるかが確認できます。

設定メニュー一覧

メニュー画面項目	内容		
映像設定 ※ 映像の内容にあわせて、画質を調整できます。	画質		
	標準	標準の番組視聴に最適な画質モードが設定されます。	
	ダイナミック	ダイナミックな映像を楽しむのに最適な画質モードが設定されます。	
	映画	映画視聴に最適な画質モードが設定されます。	
	バックライト	画面の輝度 (光の強さ) を調整します。	
	コントラスト	画面のコントラストを調整します。	
	明るさ	画面の明るさを調整します。	
	色合い	赤や緑の色を調整します。	
	彩度	画面上の色の鮮やかさを調整します。	
	シャープネス	画面上の輪郭部分の強調度を調整します。	
	LCD 調整 ※ パソコンを RGB(D-Sub15pin) 端子に接続している場合、パソコンの映像を調整できます。	オートアジャスト	画面サイズを自動調整します。
		画面位置	画面表示位置を上下左右へ移動、調整します。
		位相	画面周波数の微細な値の設定をします。
		クロック	画面の周波数を設定します。
音声設定 ※ 音量を調整します。	バランス	左右から出力される音声のバランスを調整します。	
	高音	高音の調整をします。	
	低音	低音の調整をします。	

メニュー画面項目	内容		
デジタル設定 ※ デジタルテレビを視聴中の場合のみ表示	チャンネル設定	チャンネルスキャン	チャンネルを登録します。
		リモコンボタン割り当て	リモコンのボタンに対応する放送局を割り当てます。
		受信レベル	見ているチャンネルの受信レベルを測定します。
	その他の設定	機器情報	B-CAS カードや本製品に搭載されているソフトウェアの情報を表示します。
		文字スーパー	文字スーパーの表示 / 非表示および表示する言語を切り換えます。
	お知らせ	本製品に内蔵されているソフトウェアのアップデート情報などを確認します。	
	設定初期化	現在のデジタルテレビの設定を工場出荷時の設定に戻します。	
アナログ設定 ※ アナログテレビを視聴中の場合のみ表示	自動チャンネル設定	放送局を自動でスキャンし、チャンネルを登録します。[決定] ボタンを押すとスキャンが開始されます。	
	地上アナログ /CATV ※ 放送波の設定をします。	地上アナログ	ケーブルテレビ以外は地上アナログのままにします。
		CATV	ケーブルテレビを接続している場合に選択します。
	チャンネルスキップ ※ 映像の映らないチャンネルをスキップするかどうかの設定をします。	オフ	スキップしません。
		オン	スキップします。
	リモコン選局 ※ リモコンの数字ボタンの設定を変更します。	ダイレクト	アナログ放送を視聴する場合の通常の使用方法です。
		10 キー	チャンネル番号などを直接入力したい場合はこちらを選択します。
	チャンネル設定変更	リモコンの数字ボタンへのチャンネル割り当てを変更します。	
その他設定	オフタイマー	タイマーを設定して、設定した時間に本製品の電源をスタンバイ状態にします。 オフ、30 分、60 分、90 分、120 分から選択できます。	
	ユーザーリセット	現在のすべての設定を工場出荷時の設定に戻します。 ※デジタルテレビの設定を除く	

付録

テレビのアップデート

テレビを常に最新の状態でご使用いただくために

テレビのソフトウェアの改善や、新しい機能が追加されたときなどは、デジタルテレビの放送波を通して、テレビの状態が更新されます。以下の手順で電源をオフにすると、いち早く更新情報を取得できます。

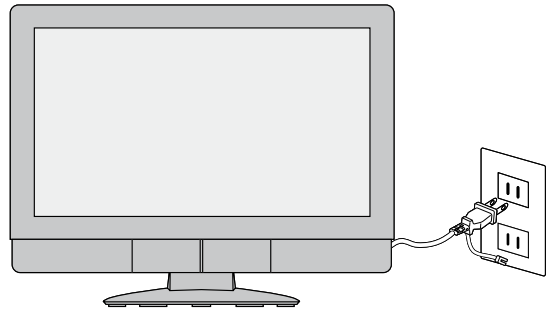
1. リモコンの [デジタル] ボタンを押し、デジタル放送を数分間視聴します。
2. リモコンの [電源] ボタンを押し、テレビを待機状態（オフ）にします。

▶ テレビが待機状態になり、更新が正常に行われると、最新の状態でテレビをご利用いただけます。

※テレビの状態を確認するには、リモコンで [メニュー] ボタンを押し、[デジタル設定] → [お知らせ] をご覧ください。

お手入れの方法

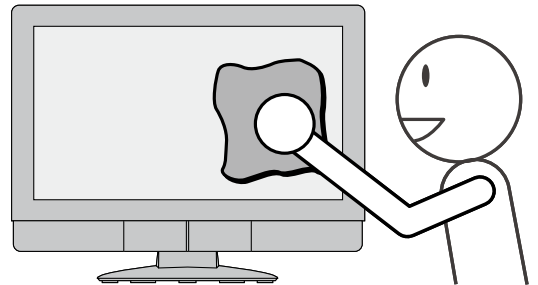
お手入れをする場合は、かならず電源ケーブルを抜いてください。

アルコールなどを使用してのお手入れは、本製品の故障の原因となりますのでおやめください。

本製品のお手入れ

柔らかい布で優しく汚れを拭き取ります。

※ 固いものでこすったり、たたいたり、布にごみが付いたまま強く拭くと、画面を傷つける恐れがあります。（液晶パネルの修理は、製品保証期間内でも無償修理の対象外です。）

お手入れの際、強くこすったり、ベンジンやシンナーなどの溶剤を使用したりしないでください。変質したり、塗装やロゴがはげたりすることがあります。

油性のマジックなど、万一拭き取れない汚れが付着した場合は、柔らかい布に水でうすめた中性洗剤をつけて軽く拭き、最後に乾いた布で拭き取ってください。

定格

主な仕様

製品型番	PIX-YT010-P00	
外形寸法 (横置き)	W509mm x H397mm x D90mm (足および突起部含まず)	
質量	約 8kg	
動作環境	使用時：温度 5 ～ 35° C、湿度 10 ～ 90% RH (結露なきこと) 保管時：温度 － 20 ～ 50° C、湿度 10 ～ 90% RH (結露なきこと)	
角度調節	チルト (前後角度) ― 5 度～ +17 度	
液晶性能	縦横比	16:9
	液晶パネル方式	TN 液晶
	解像度	1366 x 768 画素
	画面輝度	450 cd/m^2
	コントラスト比	700：1
	応答速度	8 ms
	色再現	約 1620 万色
	視野角	上下 140 度 左右 160 度
音声	音声多重	
	音声最大出力	2.5W x 2 (L/R)
	スピーカー	アンダースピーカー
電源	電圧	AC100V 2.0A
	消費電力	75W 以下
	年間消費電力	約 110kWh
	待機電力	2W 以下
入力端子	電源ケーブル	100V 50Hz/60Hz
	アンテナ端子 (F 型コネクタ)	アナログ x 1 系統 デジタル x 1 系統 入力インピーダンス 75 Ω
	IR 受光部	受光角度 上下± 30° 左右± 30°
	HDMI	1 系統 (Ver.1.1)
	S 映像	1 系統 (S1)
	映像	1 系統 (RCA)
	音声入力（S 映像 / 映像用）	L/R (RCA)
	D 端子	1 系統 (D1/D2/D3/D4)
	音声入力（D 端子用）	L/R (RCA)
	RGB	1 系統 (D-Sub15pin)
	音声入力（PC 用）	3.5 φ ミニプラグ
出力端子	光デジタル音声出力	角形 (S/PDIF)
	ヘッドホン	3.5 φ ミニプラグ
受信放送	地上デジタルテレビジョン放送 (ISDB-T)	
	地上アナログ放送	
	ケーブルテレビ (C13 ～ C63)	

※　仕様および外観は、性能向上その他の理由で、予告なく変更する場合があります。

困ったときは

よくある質問

Q.	A.
電源が入らない	電源ケーブルは接続されていますか？ 接続を確認してください。
電源を入れてもすぐに映像が表示されない	本製品が映像を受信して表示するまでに起動の準備のため時間がかかる場合があります。
映像が表示されない	• 電源は入っていますか？ 入っていない場合は、電源を入れてください。 • テレビの入力を切り換えていますか？ 視聴したい入力に切り換えてください。 • 本製品とアンテナケーブルは正しく接続されていますか？ 接続を確認してください。 • B-CAS カードは正しく挿入されていますか？ B-CAS カードの種類、挿入方向を確認してください。 • デジタルテレビの場合は、受信レベルを確認してください。 受信レベルの 60 以上が正常に受信できている目安です。 • はじめて電源を入れたとき、または引っ越しなどでテレビの受信地域が変わったときはチャンネル設定をしてください。
音声が出ない	• 音声が極端に小さい、または消音になっていることが考えられます。音量を上げるまたは消音を解除してください。 • 本製品に音声ケーブルは正しく接続されていますか？ 本製品の音声端子の接続を確認してください。
リモコンの操作ができない	• リモコンの操作範囲内で操作していますか？ 本体の前面のリモコン受光部に向けてリモコンを操作してください。 • リモコンの電池が消耗していることが考えられます。電池を交換してください。 • 電池の極性 (＋、－) が逆になっていませんか？ 正しい極性で電池を入れなおしてください。
メニュー画面が消えない	リモコンの [戻る] ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。
チャンネル番号が画面から消えない	[画面表示] ボタンで表示したままになっていませんか？ リモコンの [画面表示] ボタンを押すと表示が消えます。

Q.	A.
映像が乱れる・止まる	• アンテナの向きが変わっている、または天候が悪いことが考えられます。アンテナの向きを確認してください。また、悪天候のときは、映像が乱れることがあります。 • 本製品とアンテナケーブルが正しく接続されていますか？ 接続を確認してください。アンテナケーブルのプラグの中にある芯線が折れていないかも確認してください。 • D 端子ケーブルで接続している場合、D 端子の設定が合っていないことが考えられます。適合する D 端子の規格に設定してください。 • 視聴中や待機中など、本製品が通電状態のときに B-CAS カードを抜き差しすると、放送波が受信できなくなります。この場合は、一度、電源プラグをコンセントから抜いて、電源を入れ直してください。
字幕が表示されない	• 字幕表示機能がオフになってませんか？ リモコンの [字幕切換] ボタンを押してください。 • 番組自体が字幕のサービスを行っていない場合、切り換えできません。
文字スーパーが表示されない	文字スーパーは地震や災害などの速報に用いられることが多いため、常に表示されるものではありません。
同じ番組内での映像切り換え (マルチ映像) ができない	番組自体がマルチ映像のサービスを行っていない場合、切り換えできません。
同じ番組内での音声切り換え (マルチ音声) ができない	番組自体がマルチ音声のサービスを行っていない場合、切り換えできません。
本体が熱くなる	本体内部の放熱のため、本体が熱くなることがありますが故障ではありません。
電源ランプがオレンジ色で点滅する	テレビの電源を切る処理をしています。この間、リモコンでの操作はできませんが故障ではありません。

用語集

用語	説明
AV ケーブル	アナログの映像信号を伝送するための接続端子です。黄、赤、白の 3 つの線で 1 本のケーブルになっています。黄は映像、赤はステレオ音声の右、白はステレオ音声の左を伝送します。
B-CAS カード	デジタル放送において、番組の著作権保護や視聴管理などに利用されるカードです。デジタル放送を見るときは B-CAS カードが必要です。
CATV	“Community Cable TeleVision”・または ” Common Cable TeleVision”の略で、ケーブルテレビのことを指します。(「ケーブルテレビ」参照)
D 端子	アナログの映像信号を伝送するための接続端子です。映像信号を 3 つ (輝度信号と 2 種類の色差信号) に分けて伝送します。D 端子には D1 ～ D5 までの規格がありますが、使用する端子はすべて同じです。また、D2 ～ D5 までの規格は下位の規格に対して互換性があります。たとえば、D4 端子で接続している場合、D1 ～ D3 までの規格にも対応していることになります。本製品には D4 端子が搭載されています。
EPG	“Electronic Program Guide”(電子番組表) の略です。デジタル放送では放送波に番組表のデータが含まれており、本製品が番組表のデータを読み取ることで、画面上に番組表を表示することができます。
S 映像端子	アナログの映像信号を伝送するための接続端子です。映像信号を輝度信号と色差信号の 2 つに分けて伝送するため、コンポジット映像ケーブルに比べ、きれいな画質で表示されます。
U/V 混合器	アンテナ配線用の機器です。UHF と VHF の電波を 1 本のアンテナケーブルで伝送する場合に使用します。
UHF	電波の種類の 1 つです。一般的にアナログ放送のチャンネルの 13ch ～ 62ch が UHF にあたります。デジタル放送では UHF の電波にのせて配信されています。
VHF	電波の種類の 1 つです。一般的にアナログ放送のチャンネルの 1ch ～ 12ch が VHF にあたります。
アスペクト比	テレビ画面の縦横比を指します。標準のテレビはアスペクト比が 4:3、ワイドテレビでは 16:9 になっています。
アップデート	ソフトウェアの不具合を修正したり、新しい機能を追加したりするなど、ソフトウェアの部分的な改修のことを指します。本製品では、デジタル放送の放送波に含まれるアップデート情報を受信することでアップデートが行われます。デジタル放送をしばらく視聴してから電源をオフにするとアップデートされます。 ※ アップデート情報がある場合のみ
インターレース方式	テレビの画面表示方法の 1 つです。1 フレーム分の映像を走査線の偶数列と奇数列に分割し、2 回に分けて伝送する方式です。現在のテレビ放送やビデオ映像は、ほとんどがインターレース方式を採用しています。
ケーブルテレビ	ケーブルテレビ局から各契約世帯に有線で配信するテレビ放送です。ケーブルテレビではアンテナの設置は必要なく、宅内の配線工事と専用チューナーで受信することができます。
字幕放送	番組の音声を文字化して画面に表示する放送です。デジタル放送では多くの番組で取り入れられています。
整合器	アンテナ配線用の機器です。フィーダー線の端子と同軸ケーブルの端子を接続する場合など、異なる端子を中継する場合に使用します。
走査線	テレビの画面は小さな正方形 (画素) で構成されています。この小さな正方形は画面上に規則正しく並んでいます。走査線とは、これら小さな正方形の水平方向の 1 行のことを指します。

用語	説明
双方向サービス	デジタル放送受信機の通信機能を利用して、番組を見ながらクイズやアンケートへ回答したり、紹介されている商品を購入するなど、視聴者が番組に対して働きかけができるサービスです。本製品は双方向サービスに対応していません。
ソフトウェア	コンピュータープログラム全般のことを指します。本製品にもデジタル放送を見るためのソフトウェアが搭載されています。
データ放送	番組情報、ニュースや天気予報などの各種情報をホームページのように画面上で選んで表示することのできるサービスです。デジタル放送では、放送波にデータ放送の情報が含まれているため、番組に連動した情報を表示したり、お住まいの地域のニュースやお天気を表示させることができます。本製品はデータ放送に対応していません。
デジタル放送	2003 年 12 月から開始された新しいテレビ放送サービスです。BS/110 度 CS の衛星デジタル放送や、BS・デジタル放送と並ぶデジタル放送のひとつで、地上波の UHF 帯を使用して放送されています。地上デジタル放送では、高画質な映像と 5.1 チャンネルの高音質を提供するほか、番組表、文字放送など情報配信およびクイズ番組への参加など双方向サービスも利用できます。
同軸ケーブル	テレビとアンテナの接続に広く使われているケーブルです。心線の周囲を絶縁体で包み、その上に編んだ銅線で覆って外側をビニールでくるんでいます。心線を編んだ銅線で覆うことで、外部からの電磁波の影響を受けにくくしています。
ハイビジョン	走査線が 1125 本の映像を指します。通常のテレビ映像は走査線が 525 本の画質で描写されていますが、ハイビジョンでは走査線が 1125 本の画質で描写されるため、より高精細な映像になります。ハイビジョンの画質を再現するためには、ハイビジョン対応の受像・表示機器が必要です。
パススルー方式	ケーブルテレビ会社が受信した地上デジタル放送波を契約世帯に配信するときの方式の 1 つです。ケーブルテレビ会社が受信した電波の変調方式を変えずに伝送する方式です。
フィーダー線	テレビとアンテナの接続に使われるケーブルです。同軸ケーブルに比べて伝送損失が高いため、フィーダー線の配線はできるだけ短くする必要があります。
プログレッシブ方式	テレビの画面表示方法の 1 つです。1 フレーム分の映像を省略せずにそのまま表示する方式です。映像を省略して表示するインターレース方式に比べ、画像のチラつきを軽減でき、高画質を実現できます。
フレーム	テレビの映像は約 1 秒間に 30 枚の画が連続して表示されることで、パラパラ漫画のように動きのある映像として表示されています。この約 1/30 秒に表示される一枚の画をフレームと呼びます。1 フレーム分の映像は、約 1/60 秒に表示される画 (フィールド)2 枚で構成されています。
分配器	アンテナ配線用の機器です。1 本のアンテナケーブルで伝送されてくる電波を複数の機器で受信するために用います。分配することにより電波が弱まるため、過度の分配をすると、映像や音声が乱れる場合があります。
分波器	アンテナ配線用の機器です。VHF/UHF/BS など、複数の電波が混合されて、1 本のアンテナケーブルで伝送されている場合、それぞれの電波を分離します。
マルチ映像	デジタル放送の機能の一つです。対応している番組では、映像 (アングル) を視聴者が操作して切り換えることができます。たとえば、マルチ映像に対応している野球中継では、お好きな視点で観戦することができます。
マルチ音声	デジタル放送の機能の一つです。対応している番組では、音声を切り換えることができます。たとえば、マルチ音声に対応している洋画では、吹き替えの有無を選んだりすることができます。
文字スーパー	視聴中の番組とは関係なく、放送局が任意で配信する緊急ニュースなどの文字情報です。

索引

付録

保証とアフターサービス

お問い合わせ窓口

製品の操作方法がわからない、うまく動作しない、修理などに関しては下記までお問い合わせください。

株式会社ピクセラ - ユーザーサポートセンター

◆ ナビダイヤル : 0570-02-3500

※ 市内通話料金で、携帯電話からもご利用いただけます。

受付時間 : 10:00 - 17:00

(年末年始、土日祝、弊社指定休日は除く)

TEL: 06-6633-2990（PHS 使用時、またはナビダイヤルをご利用できない場合)

FAX: 06-6633-2992

故障・診断・修理について

◆ 故障かな？と思ったら

本書の“困ったときは”をご覧ください。“困ったときは”をご覧いただいても解消されない場合は、お買い上げの販売店様または弊社ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

◆ 診断・修理をご依頼される場合

株式会社ピクセラ - ユーザーサポートセンターまでご連絡ください。

保証書について

本製品の保証書は、製品の箱に貼り付けられている封筒に封入されています。

無償修理を受ける場合は、必ず必要になりますので大切に保管してください。

保証書は再発行いたしません。

◆ 保証期間経過後、保証外修理の場合

修理することで使用できる場合は、ご希望により有償で修理いたします。ただし、補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 5 年です。

補修用性能部品の最低保有期間を過ぎた場合でも、故障箇所によっては修理が可能な場合がありますので、お買い上げの販売店様または弊社ユーザーサポートセンターまでご相談ください。

ユーザー登録について

弊社では、お買い上げいただいたお客様へのサービス提供のため、「ピクセラ ユーザー登録」をご案内しております。ご登録いただくことで、弊社新製品情報やキャンペーン情報等をご案内しております。弊社 WEB サイトからご登録いただくか、本製品同梱の「ユーザー登録カード」にてご登録いただけます。

ご登録の際には、「ユーザー登録カード」の内容をよくお読みのうえ、ご登録ください。

◆ ご登録に関するお問い合わせは

インターネットで、”https://regist.pixela.co.jp/”にアクセスし、「ご登録に関するお問い合わせ」からフォームにてお問い合わせください。

保証規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、弊社にて無償修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無償修理を受ける場合は、お買い上げいただいた販売店様または、弊社ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。なお無償修理に際しては、必ず保証書のご提示が必要となります。
3. 保証期間内でも次の場合は有償修理となります。
   イ）お買い上げ年月日が確認できない場合、また、販売店名、販売店捺印のない場合（※オンラインでお買い上げいただいた場合は、お買い上げ日を証明する書類（納品書等）が必要となります。）
   ロ）保証書のご提示が無い場合、また保証書を書き換えられた、所定事項にご記入なき場合
   ハ）操作上の誤り、他の機器との誤った接続、及び弊社によらない修理や改造による故障及び損傷
   ニ）お買い上げ後の輸送、移動時のお取り扱いが不適当なため生じた故障および損傷
   ホ）火災、風水害、地震などの天災及び異常電圧による故障および損傷
   ヘ）ご使用中、ケース等に生じるキズなどの外観上変化
   ト）消耗品（電池など）及び付属品のお取替えの場合
   チ）譲渡・転売・中古購入の場合
   リ）液晶パネル、バックライトの経年による劣化の場合（発色、輝度、焼き付き、ドット抜けの増加など）
   ヌ）経年劣化による故障および損傷
4. 保証期間内でも製品を弊社へ送付された場合の送料及び諸掛りにつきましてはお客様の負担となります。なお、ご送付の際は適切な梱包の上、紛失防止のため受け渡しの確認できる手段（簡易書留や宅配など）をご利用ください。
5. 本製品の故障により、または、その使用により生じた直接、間接の損害につきましては、弊社はその責任を負いかねます。
6. 本製品は将来発表されるハードウェア・ソフトウェアとの互換性は保証いたしません。
7. 修理受付後、弊社技術部門において障害が再現できない場合は、交換、修理をいたしかねる場合があります。
8. 修理によって交換された不良品の所有権は、当社に帰属するものとし、交換した部材に関してのデータ等の内容については一切の責を追わないものとします。
9. 保証期間経過後の修理につきましては、やむを得ない事情により、お客様へ事前通知することなく使用部品などを変更する場合があります。

保証書は、保証書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従って、保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社ユーザーサポートセンターへお問い合わせください。